

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

14.21
17

勸業報告

第三册

定價十五錢

兵庫縣勸業課印行

始



勸業報告第三册自第七號至第九號

目錄

- 第七號 ○通信要旨 ○米國綿二種試作景况 ○輸出牛頭增減表 ○姬路木綿盛衰原因 ○貯金預法 ○管内通信 ○告示 ○雜報
- 第八條 管内通信 ○神戶輸出入半年表 ○兵庫物價表 ○告示 ○雜報
- 第九號 ○地方小農會 ○龍野醬油 ○外國貿易 ○農具報告 ○書籍借覽 ○飲料ノ腐敗ヲ防ク法 ○印度茶馬鈴薯播種法 ○質問 ○告示 ○雜報十五件

勸業報告第七号

目錄

通信要旨 ○米國綿二種試作景况 ○輸出牛頭增減表 ○姬路木綿盛衰原因 ○貯金預法 ○管内通信 ○告示 ○雜報

通信要旨

農工商ノ諸業ニ就キ其實况ヲ通報シ各自ノ参考ニ供スルハ尤緊要ノ事ニシテ殖産興業上蓋第一ノ急務ナリ然リト雖モ我那從來通信報告ノ習慣アラサルト調査費用ノ嵩ルヲ以テ周密ノ報告ヲ爲ス者尤モ少ク又之ニ注意傾耳スルヲ太及切ナラス之ヲ下ニシテハ人々實况ニ暗クシテ業務ヲ振作スルノ便ヲ得ス之ヲ上ニシテハ利害得失ヲ計畫シ

勸業報告第三册自第七號至第九號

目錄

- 第七號 ○通信要旨 ○米國綿二種試作景况 ○輸出牛頭増減表 ○姫路木綿盛衰原因 ○貯金預法 ○管内通信 ○告示 ○雜報
- 第八條 管内通信 ○神戸輸出入半年表 ○兵庫物價表 ○告示 ○雜報
- 第九號 ○地方小農會 ○龍野醬油 ○外國貿易 ○農具報告 ○書籍借覽 ○飲料ノ腐敗ヲ防ク法 ○印度茶馬鈴薯播種法 ○質問 ○告示 ○雜報十五件

勸業報告第七号

目錄

- 通信要旨 ○米國綿二種試作景况 ○輸出牛頭増減表 ○姫路木綿盛衰原因 ○貯金預法 ○管内通信 ○告示 ○雜報
- 通信要旨

諸業ニ就キ其實況ヲ通報シ各自ノ参考ニ供スルハ尤緊要ノ事ニシテ殖産興業上蓋第一ノ急務ナリ然リト雖凡我邦從來通信報告ノ習慣アラサルト調査費用ノ嵩ルヲ以テ周密ノ報告ヲ爲ス者尤モ少ク又之ニ注意傾耳スルヲ太甚切ラス之ヲ下ニシテハ人々實況ニ暗クシテ業務ヲ振作スルノ便ヲ得ス之ヲ上ニシテハ利害得失ヲ計畫シ

勸奨保護ノ法ヲ定ムルニ暇ナシ眞ニ歎息スヘキノ至ナリ
近時勸農局ニ於テ農事通信ヲ各府縣ノ間ニ開カレシヨリ
未タ普ク其便ヲ得ルニ至ラサルモ全國農事ノ氣脈始メテ
聯絡シ東西ノ情狀民間ノ利病稍察知スヘキノ至レリ夫ノ
虫害ノ景況ナリ驅除ノ方法ナリ一タヒ呼應シテ注意施設
皆宜シキニ適シ又米麥耕種ノ方法產出消費ノ數額等互ニ
比較照量スルニ足ルベク以テ舊弊ヲ改メ新利ニ就キ迂拙
ヲ去リテ精巧ニ赴クモノアリ又或ハ養蠶牧畜ノ方法ヲ改
良シ及器械ノ發明種苗ノ交換等其他一般ノ智識ヲ擴メ各
自ノ志氣ヲ鼓舞スルニ足ルモノ少カラス隨テ實際ノ利益
ヲ生シ無限ノ幸福ヲ其間ニ與フルヤ殆ント測ル可ラサル

モノアリ
商務局ニ於テモ亦商況調査ノ事ニ注目シ通信ノ事ヲ各府
縣ニ囑セラレ又都府開港場及其他ノ大市邑ニテハ商法會
議所ノ設アルヲ以テ調査ノ便稍整ヒ各地商品需用供給ノ
多寡物價高低ノ原因及品位ノ精粗販路ノ伸縮其他一般内
外貿易ノ景況ヲ調整シ雜誌月報等ヲ發兌シ各人民ヲシテ
其實況ヲ知ラシム其便舉テ言フベカラサルナリ若夫人々
此ニ熟察スル所アリテ盛衰増減ノ由テ來ル所ノ原因ヲ討
究シ事業進步ノ前途ヲ明カニスルキハ徒勞ノ艱難自ラ減
シ復タ其失敗ヲ免カルニ幾カラソカ之ヲ要スルニ農事
通信ナリ商況調査ナリ其事固ヨリ繁雜ニシテ之ヲ調整ス

ルヤ頗ル時日、勤勞、資費ヲ要シ人民一個ノ獨リ能クス可キ
モノニアラサレバ宜シク協心同力ヲ要セサル可ラス故ニ
歐米諸國ニ於テモ此等ノ事務ハ專ラ政府ノ幹理スル所ト
ス殊ニ米國ノ如キハ通信報告ノ事ヲ以テ農務省重要ノ務
トナスト云フ

本縣ニテモ明治九年來農事通信ノ便ヲ開カントシ舊區長
等ヲ以テ通信委員ニ充テタリト雖モ嘗テ通報ノ有益ノ事
ニ及フナク一モ其功ヲ奏セシモノナシ而ルニ客年一月郡
區改正ニ際シ報告ノ事ヲ郡區長ニ委任セシヲ以テ各郡區
長ハ常務ノ繁劇ニモ拘ハラヌ農工商ノ實況ヲ報告シ大ニ
勸業上ノ便利ニ供シタルヲアリ然レモ其通信タル互ニ詳畧ヲ

異ニシ取捨宜シキヲ得ス未タ以テ眞理ヲ得タリトスベカラ
ス客年七月以降ハ毎月勸業報告ヲ發兌シ實際ノ便益ニ供
セント欲スルモ管内通信ノ如キハ寥々トシテ多少見サル
所ナリ依テ更ニ本廳勸業課ト互ニ親密ヲ旨トシ特ニ各郡
役所ニテ通信委員ヲ定メ以テ其事ヲ任セント客年十二月
ヲ以テ其人員ヲ認定シタリ(其姓名ハ載セテ勸業報告第六
号告示ノ部ニ在リ)今ヨリ以後通信委員ハ深ク實際ノ事物
ニ注目シ緩急期ヲ誤ラス細大漏スナク能ク其情狀ヲ詳報
セラレシヲ切ニ期望スル所ナリ

○左ノ一篇ハ農事月報第八号ニ附シ勸農局ニ送呈シタル
モノナリ今茲ニ之ヲ掲ク

米國綿二種試作景况

本縣神戸植物試驗場ニ於テ米國綿二種試作ノ景况ハ一昨
十年及十一年トモ既ニ報告ニ付シタレバ今復タ茲ニ贅セ
サレモ右兩年間ノ經驗ヲ陳述セサレバ未タ本年試作ノ方
法ヲ用ヒタル所以ヲ知ル能ハサルヲ以テ今其經驗ノ一二
ヲ畧陳スベシ
一昨十年五月(八日)下種ノ後ハ專ラ綿幹ノ成長シテ結球ノ
多カラレヲ務メ頗ル力ヲ培養ニ尽シ干鰯油糟灰等ノ肥
料ヲ施スヲ屢回ニシテ耕耘六回ノ多キニ及ヒ苟モ風雨ア
レバ或ハ援ヲ結ヒ或ハ竹ヲ添ヘテ其傾倒ヲ助ケタルニ依
リ綿幹頗ル勢力ヲ倍シ其高キモノハ或ハ壹丈ヲ過クルモ

ノアリ而シテ其開球シタル者ハ七分ニシテ余ハ全ク殻ヲ
破ラサルニ依リ莖上ニ撒布シテ太陽ニ曝ラシ殻ヲ破リテ
綿ヲ採リ之ヲ紡績器械ニ掛ケタルニ糸條動モスレバ切斷
シ易クシテ充分ノ實用ヲ得ルニ至ラス依テ其破殻セスシ
テ綿實ノ熟セサルハ畢竟時季ノ後レタルト其生長ヲ縱マ
ニセシメタルニ依ルベシト思量セリ之ヲ第一回ノ經驗ト
ス
右ノ故ヲ以テ昨十一年ハ四月一日ヨリ蒔始メ五月二十一
日ニ至ル迄或ハ五六日或ハ十數日ヲ隔テ凡七回ノ播種ヲ
試タルニ四月一日ヨリ三日ニ至ル(寒暖計六十二度ヨリ六
十九度)三回播種ノ分ハ或ハ虫害ヲ受ケ或ハ寒風ニ値テ皺

ミ八分通りハ萎枯又ハ腐敗ニ属シタリ爾後五月七日ヨリ
同二十一日ニ至ル(寒暖計七十度ヨリ七十五度四回播種ノ
分ハ皆其生長ヲ遂ケ長ケ一丈ニ過キタリ依テ播種ハ其早
カラシヨリ寧ロ晩キヲ善シトシ寒暖計七十五六度ヨリ八
十度位ヲ適度トスルヲ悟レリ故ニ其綿實ヲシテ悉ク開球
セシムルハ幹末ヲ缺切り專ラ肥力ヲ綿實ニ入レシムルニ
若カストシ其一半ハ幹末ヲ缺斷シタルニ尙十分ニ其效ヲ
見ル能ハサリシ之ヲ第二回ノ經驗トス
右ノ如ク既ニ二回ノ經驗ヲ經タルニ依リ本年ハ前二ヶ年
ト全ク其方法ヲ變シ左ノ三法ヲ試ミタリ
第一法 五月二十一日(寒暖計八十度)ソノヲ小麥ノ中ニ播

種シ土七分油糟粉三分ヲ交セ合セ麥ノ畦肩ハ二尺間隔ニ
五六寸廻ハリニ穴ヲ掘リ右肥土ヲ入レ手ヲ以テ能ク交セ
合セ其上ヨリ作り土ヲ一寸許入レ其上ニ下種シテ指ヲ以
テ之ヲ押ヘ其上ヨリ土ヲ一分覆ヘリ
第二法 前冬ヨリ多分ノ糞汁ヲ澆キ置キタル肥土ヲ以テ
油糟ノ代用トナシ前同様ノ蒔付方ヲ爲シタリ
第三法 内國從來ノ慣法ノ如ク畦肩ハ細キ溝ヲ掘リ只水
肥ヲ施シ下種シテ土ヲ掛ケ蹴ヲ以テスリ置キタリ
本年ハ右三法ノ如ク下種シタル後只一二回水肥ヲ與ヘタ
ルノミニテ全ク一放シ去リ添木ヲ與ヘス耕耘モ僅二回ニ
止マリシニ其試作方法ノ異ナルニ從ヒ其長ケハ多少長短

ノ差アリト雖三法共ニ太々異ナルコトナク大概三尺ヨリ
四尺ノ間ニ在リ而シテアツプラント綿ハ壹株ニ九十ヨリ
百三十ノ綿房ヲ結ヒ十分ニ開球シ殆ント試験ノ目的ヲ達
シタルモノ、如シ蓋第一回ノ經驗ニハ肥料ニ飽過シテ綿
樹長ク老セス竟ニ能破球スルニ至ラス第二回ノ經驗ニハ氣
候ノ早キニ失スベカラサルヲ悟リタルヲ以テ第三回即本
年ノ試験ニ至テハ肥料ヲ節減シ寒暖ハ適度ヲ謀テ之ヲ試
作セシニ前陳ノ如ク十分ハ開球ヲ遂ケタリ、但全ク收穫ヲ
終リタル後ニ非レバ精密ノ比較ヲ爲ス能ハサレハ蓋其取
獲モ前二ケ年ニ超過スルハ疑ヲ容レサルモノ、如シ夫本
年ノ如ク多ク人力ヲ勞セス肥料ヲ費サスシテ十分ノ開球

ヲ遂ケ收穫モ他ニ比シテ多量ナルハ疑ヲ容レサル程ナレ
バ之ヲ一般ニ普及シテ試作セシムルモ蓋其成果ヲ見ルヲ
得ヘキヲ信ス但シイアイランド綿ノ結球ハ前年ヨリ多キ
モ其開球ハ僅ニ四分ニシテ前二ケ年ニ劣ルモノニ似タリ
故ニ明年ハ尙培養ノ方ヲ替ヘ其生長ヲ試ミサレバ得失ヲ
明言スヘカラスト雖モ到底シイアイランド綿ハ其名ノ如
ク海濱ノ砂地ニ非レバ十分ノ開球ヲ保ツ能ハサルモノ、
如シ要スルニ二種ノ綿樹トモ猶數回ノ試験ヲ經テ全ク其
功ヲ奏シ一般傳播セシムコトヲ期ス

附言○揖西郡各村ニテモ右兩個ノ綿種ヲ試作セシニ大
概幹ノ長サ六尺球壹本ニ付百五十個以上ノモノアリテ

出來方十分ナリト雖ニ球實開カスシテ收穫ヲ得ルニ由
ナカリシヲ以テ廣ク老農ニ質セシニ稍信ヲ措クヘキ一
報ヲ得タリトテ同郡月報ニ付シテ寄贈アリタルニ付キ
併録シテ以テ参考ニ供ス

揖西郡上余部村 岩村善六

凡作物ハ年々作地ヲ換ヘ及種苗ヲ交換シテ収利ヲ増ス
ハ農家ノ常言ナレニ草綿ハ之ト反對シ長ク他ノ植物ヲ作
リタル地ニ始メテ綿ヲ作ルキハ其幹徒ニ長大トナリ俗ニ
立根ト唱ヘテ根配リ深ク勢力盛ニシテ收期ニ至リ幹末ニ
花ヲ開キ又ハ幹ノ本ヨリ多ク芽ヲ生シ收穫ノ期ニ後ル尙
綿房ニ腐蝕多クシテ品位頗ル惡シク收穫モ半ニ過キ不然

ルチ三五年モ同地ニ作ルキハ漸次根配リ淺クナリ立根モ
自然ト減シ收期順ヲ追テ收穫多ク品質隨テ美ナリ十年ヲ
過クルキハ眞ノ綿地トナリテ十分ノ收穫ヲ得ルニ至ル且
該種交換ノ如キモ其利ナキニハ非レニ長ク作り馴レタル
種子ヲ植ヘタルト同様ニ十分施糞スルキハ又幹ノミ長大
トナリ作地ヲ換ヘタルト一般收穫ノ幾分ヲ減ス依テ換種
ノ年一作ハ施糞ヲ半ニシテ相當ナリ而シテ一年作ヲ過ク
レバ通常ノ如クニ施糞シテ全ク其効驗ヲ現セリ然レニ之
ヲ他境遠地ニ試ミタルニ非ズ只當地ニ於テ長ク農ニ從事
シテ經驗シタル所ト老農ノ説ヲ合セテ該業従事者ノ参考
ニ供シタルノミ

编者日本文中該種交換ノ如キモ其利ナキニハ非レ作
 リ馴レタル種子ト同様十分施糞スルキハ云々ノ語アリ
 是レ其肥料ハ多キニ過キンヨリ寧ロ少ナキヲ善シトス
 ルヲ知ルニ足レリ而シテ換種ノ年一作ハ肥料ヲ半ニシ
 テ相當ストノ説ニ因ルキハ却テ換種ノ利益アルヲ知ル
 ニ足レリ本文冒頭ニ草綿ハ之ト反對トノ語ハ少ク酷ニ
 過クルヲ覺フレモ姑ク原文ニ隨テ記シタルノミ

神戸輸出牛頭増減表

勸業報告第二号ニ於テ牧畜畧説ヲ掲ケ牛頭ノ年々減少ス
 ル情態ヲ示シ併セテ後來ノ繁殖ヲ謀ラサル可カラサル所
 以テ述ヘタリ今又茲ニ明治十一年及ヒ全十二年中本港外

國人エ賣込ノ數並價格等ヲ比較對照シテ以テ其實況ヲ示
 スベシ

頭數	元價		壹頭平均價		平均價前 年比較
	十一年	十二年	十一年	十二年	
一月	三〇一〇	四、九四四、五〇〇	一、九七〇、〇〇〇	一、六四二、七一九	增三、二七六
二月	一八〇二	三、二〇七、〇〇〇	一、七八一、七一九	一、四八三、二〇〇	同、六六六
三月	三六〇三	六、八六五、五〇〇	一、九一六、三二〇	一、九〇七、〇二一	同、八七三
四月	二七五五	五、五二九、〇〇〇	一、九六一、〇〇〇	一、九二一、六二二	同、五五五
五月	三二二一	五、四七五、〇〇〇	一、六九六、〇〇〇	一、八二〇、二二四	同、一八〇
六月	二四二一	四、七〇八、五〇〇	一、九四七、五〇〇	一、九四六、二四九	同、五〇九
七月	二九二一	五、一四七、〇〇〇	一、七六二、〇〇〇	一、七六二、二四六	同、九八三
八月	二二二一	四、二三七、五〇〇	一、九一七、四二七	一、七四二、二七三	同、一五二
九月	二四三一	四、四九〇、五〇〇	一、八四八、〇〇〇	一、八四八、〇〇〇	同、〇二六
十月	二三八一	四、五五二、二八五	一、九二七、二七二	一、九二七、二七二	同、〇二六
十一月	三三三八	七、二二七、〇〇〇	二、一八七、〇〇〇	二、一八七、〇〇〇	同、〇二六
十二月	三三三八	七、二二七、〇〇〇	二、一八七、〇〇〇	二、一八七、〇〇〇	同、〇二六
通計	三、二六三	六二、四二二、四八五	一、九〇四、二二〇	一、九〇四、二二〇	同、七〇七
前年比較	減、四四、一	減、一、〇九三、六六三	減、一、〇九三、六六三	減、一、〇九三、六六三	同、七〇七

此表ニヨリテ之ヲ觀レハ年々月々頭數ヲ減シテ其價格ヲ
増スモノハ物價ノ騰貴ニ由ルモノナルベシト雖モ豈ニ又
現品欠乏ノ致ス所ナラスヤ現ニ十一年一月ノ賣込ハ三百
〇一頭ニシテ十二年一月ハ百〇一頭ノミ而シテ十一年一
月一頭平均ノ價ハ十六圓四十二錢余ナリシモ十二年一月
ハ十九圓七十錢余ニ及ヒ其騰貴スルハ二割余ナリ爾後九
月十月頃ニ至リテハ一頭ニ付八九圓ノ差ヲ生シ其騰貴ス
ルハ四割二三歩ヨリ五割ニ至ラントス而シテ賣込ノ最モ
少キ月(九月)ハ僅ニ九十二頭ノミ其一年總計ニ至リテモ前
年ヨリ減少スルハ一千五百頭ニ下ラス之ヲ平均スレハ一
ヶ月凡百二十五頭ノ減少ナリ此ノ如ク頭數毎ニ相減シテ

價格毎ニ騰貴スルハ畢竟現品欠乏ニアラズシテ何ソヤ抑
々需用供給ノ相平均スルヤ自然ノ道理ニシテ需用愈多ケ
レハ隨テ供給ヲ増殖シ早晚平準ヲ得ルハ固ヨリナリト雖
モ其價直ノ甚貴クシテ一時利益ノ多キニ迷ヒ其種牛ヲモ
併セテ販賣スルニ至テハ復其蕃殖ヲナスコト能ハサルノ患
アリ是最モ注意セサル可カラス聞ク神戸近傍ノ村落ニテ
耕牛太々減少シ貧農ニアリテハ之ヲ購求使用スル能ハス
漸ク人力ヲ以テ之レニ代ルニ至ルト豈ニ困厄ノ甚シキモ
ノナラスヤ然レモ需用ノ増加價格ハ騰貴ハ畢竟牧畜者ハ
心ヲ勵スニ足ルモノアリテ民間ニテモ大ニ繁殖ヲ謀ルニ
至ルハ必然ノ勢ニシテ又深く患ルニ足ラサルモハアリ依

十八
テ本縣ニテハ專ラ種類改良ノ點ニ注目シ大ニ力ヲ盡ス所
アラントス(但馬牧畜掛ニテ施行シタル種類改良ノ景況ハ
他日之ヲ詳報スルコトアルベシ)

姫路木綿盛衰ノ原由

凡ソ姫路木綿ト稱スルハ播州諸郡ニテ織出スモノ、一百余
萬反之レニ加フルニ因伯雲ノ諸州並藝州防州等ニテ織出
スモノヲ此地ニ購求シ近傍ノ河流ニテ晒シ上ケ又ハ染工
ヲ加エテ各地ニ販賣スルモノトス今ヨリ十余年前迄ハ其
反數凡ソ二百萬ニ及ヒ其内一百萬反ハ晒木綿ニテ江戸送
リニ係リ餘ハ染地ニテ山陰山陽及ヒ九州諸國エノ販賣ニ
係リシト云フ

此木綿ヲ賣買スルニ藩廳ニテモ之ヲ保護セン爲メ天保年
間ニ國產會所ノ一局ヲ設ケ木綿札(紙幣)ヲ發行シテ貸付ノ
法ヲ定メタリ此會所ハ二名ノ官吏出張シ外ニ商人ノ身元
正シキ者ヲ撰ミ其事ヲ取扱ハシム例エハ一軒ノ木綿間屋
ニテ木綿ヲ買入レ之ヲ江戸ニ送ラント欲スレハ買入ノ個
數ヲ國產會所ニ申出テ江戸國產掛リエノ送り狀ヲ請フモ
ノトス而シテ此送り狀ヲ荷物ニ添エテ飾磨ニ在ル運送間屋
ニ渡スコトス
飾磨ノ間屋ニテハ荷物ヲ請取リ請取狀ヲ荷主ニ渡シ荷物
ハ兵庫大阪ノ間屋ニ轉送シ其ヨリ東京ニ輸送スルヲ例ト
ス是ニ於テ荷主ハ間屋ノ請取狀ニ拜借願書ヲ添エ之ヲ國

二十
産會所ニ出ス會所ハ其木綿金額ノ六七分ニ當ル高キ木綿
札ニテ貸與スルモノトス
江戸送りノ品物彼地ニ到着スル時ハ之ヲ藩邸(中屋敷)ノ倉
庫ニ納レ同藩用達ノ間屋(小網町ニ二軒アリ)ニ見本ヲ渡シ
傳馬町邊ノ木綿商店ニ引合ヒ賣買ノ周旋ヲナサシム此間
屋ハ賣買約定ノ上幾分ノ口錢ヲ得其金額ハ六十日內ニ皆
納スルコトトス
江戸國産掛ニテ該金額ヲ受取ル時ハ之ヲ姫路國産會所ニ
通報シ木綿殘代金ヲ悉皆荷主ニ下ケ渡スコトトス此ニ至テ
借金皆濟トナル但曩キニ貸與シタル金ニハ利息ヲ加ルコ
トナシ

二十一
木綿札ハ一分二分壹匁拾匁等ノ種類ニテ發行スル所ノ
物額殆ント五六十萬兩ニ上リ一般ノ通用ニ供スト云フ
但江戸藩邸ニテハ常ニ正金ヲ受取り藩中ニハ紙幣ヲ發
行スルヲ以テ其間幾多ノ利便ヲ得テ財政ヲ彌縫スルコ
多シ又此札ハ交換ノ法モ定メタリト雖モ明治一新ノ際
ニ至リ五拾目百目ノ大札ヲ發行シ爾後交換ノ法モ充分
行ハレス價格漸々低落シ初メ銀百目ニ付札百二匁ト交
換セシモ廢藩ノ際ニハ金一圓ニ付二百拾九匁五分ヨリ
三百目ヲ以交換スルニ至レリ
右ノ法ニヨルキハ木綿商人ハ左ノ數項ノ便利ヲ得ルモノ
トス

第一 運輸ノ法封建ノ時ニ方リ運輸ノ道未タ開ケス殊ニ平民ノ荷物ニ至リテハ運搬尤モ不便ナリシモ此法ニヨルキハ藩用ノ物品トシテ通行スルコトス

第二 販賣ノ法商人各自ニ販賣セント欲スレハ豫メ之レカ引合ヲナサ、ル可カラス或ハ又自ラ遠路ニ赴カサルヲ得ス此法ニヨルキハ自國ニ於テ其事ヲ辨シ販賣上ニ於テ別ニ念慮ヲ勞スルコトナシ

第三 爲替融通ノ法昔時爲替法未タ開ケス隨テ融通ノ便ヲ欠キンモ此法ニテハ全ク荷爲替ノ体ニテ其物品未タ賣捌ケサルモ早既ニ七分ノ金額ヲ得次回ノ仕入等ヲナスコトヲ得

以上掲記スル如ク藩制ノ保護能ク行ハレ商人ノ便利少々ナラサルヲ以テ該産業モ次第ニ繁盛ニ赴キ爲メニ衣食スル者太ダ多カリシモ廢藩ノ時ニ方リ國產會所ヲ閉鎖シ其法廢止ニ属シタルヲ以テ木綿商人ハ頓ニ其便ヲ失ヒ該製産ニ從ヒシ者漸ク其業ヲ廢スルニ至ル加之ナラス舶來ノ綿布類盛ンニ世ニ行ハレ人々競フテ之ヲ求ムルヨリ内國木綿ノ需用ハ大ニ減少スル等ノ影響ニヨリテ姫路木綿ノ衰頽ハ實ニ甚シク昔時木綿問屋ト稱スル者三十軒余アリシカ今ハ只五六軒ニ過キス又仲買人四五百名アリシカ今ハ百五六十名ニ過キス此ノ如キ景况ナルヲ以テ姫路市街ハ勿論近傍諸郡ノ製産家モ亦隨テ衰微ニ赴キ無産ノ徒モ

僅少ナラスト云フ之ヲ姫路、木綿、盛衰ノ原由ト、
 今夫レ運輸ノ道交通ノ便ハ能ク開ケ復タ往時ノ比ニアラ
 ハルナリ而メ爲替ノ法モ亦能ク整理スルヲ以テ該地人民
 彼慣法ヲ取捨シテ木綿賣買ノ法ヲ立テ荷爲換ノ事ヲ該地
 ノ国立銀行ニ委託スルキハ又往昔ノ便利ヲ今日ニ占メ得
 テ姫路木綿ノ衰頽ヲ挽回スルニ至ルモ亦太々難キニアラ
 サル可シ蓋シ荷爲替法ハ銀行營業中ニ於テ最モ確實ニシ
 テ利益多キモノナレハ銀行ニテモ必ラス其事ニ從フヘシ
 此ノ如クニシテ該產業ヲ振作スルニ至ラハ當ニ其地ノ繁
 榮ヲ來スノミナラス實ニ播州諸郡ノ幸福ナリト云フ可キ
 貯金預法

國家ノ富強ヲ謀リ一身ノ安榮ヲ求ムルニハ殖産ノ道素
 ヲヨリ要ニ勉強ノ功亦輕カラズ然レドモ節儉ヲ旨トシ冗
 費ヲ省クノ道ニ就カサレハ安ゾ能ク其富強安榮ヲ求ム
 ルヲ得ンヤ蓋シ勉強ハ進取ノ法ニシテ、儉約ハ退守ノ策
 ナリ前後相省ミ進退其度ヲ得ハ始メテ富勉安榮ノ域ニ
 到ルヤ必セリ此報告ニ掲クル所ノ事多クハ殖産ノ法ノ
 時ニテ記スルニ雖モ其間又節用ノ意ヲカルヘカラズ夫レ
 用ヲ節シテ財ヲ裕カニスレハ又貯蓄繁殖ノ法ヲ設ケサ
 ル可カラス貯蓄繁殖ノ法ハ驛遞局貯金預法ノ如キ尤モ
 便利ニシテ今日ノ民情ニ適セルモノト謂フヘシ今茲ニ
 告諭ノ大意ト管下貯金預所地名ヲ掲ケ有志者ノ採擇ニ

供セントス冀クハ有志ハ者能ク細民ニ懇諭シテ此旨ニ
適フベキヲ勉メラレシトナシ郡役所戸長役場ニハ貯金預
規則抄録一葉ヲ付ス

貯金預法諭告ノ大意

抑モ貯金預リ法ノ旨趣ハ下方一般ノ人民ヲシテ日々ノ費
用ヲ節約シ漸次其餘金ヲ預ケテ幾許額ノ資金ニ充タシメ
由テ以テ一家ノ産ヲ隆ニシ一身ノ業ヲ興シ男ハ以テ婚シ
女ハ以テ嫁シ以テ子ヲ育テ以テ子ヲ教ヘ壯年ノ時ニ在リ
テ老後ノ計ヲナシ強健ノ日ニ在リテ疾病事故ノ備ヲナシ
節儉ノ良風ヲ起シ貯蓄ノ美俗ヲ興サントスルニアリ然ル
ニ我國下方人民ノ通習タル概テ朝ニアリテ夕ヲ慮ラス今

日アルヲ知リテ明日アルヲ知ラス從テ得レハ從テ散シ毫
モ遠慮預備ノ意ナシ却テ節儉貯蓄ヲナスヲ耻トナス故ニ
疾病事故アルノ日ニ際シ老衰廢職ノ時來レハ俄ニ凍餒困
阨ノ極ニ陥リ竟ニ他人ノ累ヲナス中ニ就キ偶々節儉ヲ行
ヒ其得ル所ノ若干額ヲ貯蓄セント欲スル者アルモ或ハ之
ヲ匣中ニ藏メ或ハ之ヲ囊底ニ埋メ假令ヒ僅ニ盜火ノ難ヲ
免ルモ更ニ利益ヲ生セス或ハ黠商ノ甘言ニ惑ヒ徒ラニ
高利ニ眩シテ究竟元利悉皆ヲ亡失スルノ類比々皆然リ遂
ニ人ヲシテ勉強節儉シテ貯蓄シ漫ニ之ヲ失ハンヨリハ寧
ロ得ルニ隨テ之ヲ費スノ便ナルニ如カスト云ハシムルニ
至ル是レ此ノ貯金法ヲ設ケテ節儉ヲ獎勵シ餘金ヲ安全ニ

貯蓄スルノ欠クヘカラサル所以ナリ然レドモ貯金預方法
 タル輒近ノ創設ニ係リ下方一般ノ人民未ダ此法ノ實益ヲ
 知ラサルノミナラス此法ノ設置シアルヲ知ラス終ニ此良
 法ヲシテ其當然ノ効用ヲ奏セシメサラントス甚々慨歎ノ
 至リナリ是ヲ以テ今主トシテ一般人民ヲシテ此良法ヲ知
 ラシムルノ業ニ從事セントシ貯金預リ規則ノ要領並ニ利
 子ノ計算方ヲ左ニ記載シ諭告ス有志者其レ此意ヲ體認シ
 下方人民ヲ獎勵シテ金額ノ多少ニ拘ハラヌ其節儉ノ餘金
 ヲ預ルヲ誘導シ漸次此方ノ盛大ヲ致スニ至ラシメハ幸甚
 ○攝津 兵庫 菟原郡新在家

○播磨 姫路 明石 赤穂 龍野
 ○但馬 出石 豊岡 生野
 ○丹波 篠山 ○淡路 洲本 垂井
 ○管下重要ノ四物產生系、麻、綿、鹽相場ノ報告ハ商務局長ノ
 照會ニヨリ管下該業ニ熟練シ且篤志ノ人ニ囑シタレハ
 能ク其實況ヲ悉シタリ依テ各員ノ報告ヲ纂輯シテ以テ
 商務局ニ送呈シタルモノナリ

●印ハ百斤ニ付
 餘ハ拾貫目ニ付

產地名稱 糸作ノ名稱 八月相場 九月相場

但馬國七美郡村岡

捻シ作り

上旬三百九十五圓
 下旬四百十圓

上旬四百十圓
 下旬四百十圓

但馬國 氣多郡久 斗製糸場	器械系捻シ	九月相場		十月相場	
		上旬七百三十弗 下旬七百十弗	上旬七百〇五弗 下旬七百十弗		
全 養父郡 大屋谷	座操捻作	九月相場		十月相場	
		上旬四百十圓 下旬四百二十圓	上旬四百二十五圓 下旬四百拾七圓五拾錢		
全 氣多郡	手挽長糸	九月相場		十月相場	
		上旬三百三十圓 下旬全	上旬四百圓 下旬全		
全 城崎郡 美含郡	大拵捻シ長糸	九月相場		十月相場	
		上旬二百四十圓 下旬二百四十五圓	上旬二百四十五圓 下旬二百五十圓		
全 大拵 貫		上旬二百八十圓 下旬二百九十圓	上旬三百圓 下旬三百五十圓		

縣下養蠶ノ地方ハ但馬國ヲ第一トシ丹波二郡之レニ次キ播磨ノ内五六郡モ從來其業ニ習熟シ近年管下一般盛シニ行ハレントスルノ景況ナリ殊ニ但馬國ニテ出石養父朝來七美氣多ノ諸郡尤モ盛シナリ本年但馬地方養蠶ノ景況ハ

四月下旬ヨリ蠶兒初メテ發生シ五月初旬ニ至リ全ク其業ヲ了レリ然ルニ初眠前後ハ寒暖度ヲ失ヒ連日ノ濕雨ヲ以テシ蠶兒ノ害トナル少カラズ平均七歩ノ作ナリ之ヲ一般ノ景況トス其各郡相異ナル所ハ次項ニ於テ列記スベシ七美郡製糸ノ法ハ依然舊慣ヲ墨守シ海外輸出ニ適セサルモ村岡系或ハ七美繭ト稱シ昔年ハ丹後ニ賣捌キ近年ニ至リ西京ニモ回送シ少シク改良ノ途ニ趣クノ景況ナリ本年壹荷拾貫目ノ代金四百圓内外ニシテ荷數凡ソ五十荷昨年ニ比スレハ二十荷ノ減數ナリ然レモ其價ハ壹荷ニ付五十圓ヲ増シタリ獨リ憾トスル所ハ製糸家ノ大商ナキト金融ノ乏シキトニ因リ其業太々振作セス且生糸ノ出來上リヲ

待ナ一時ニ賣捌キ殆ント後日騰貴ノ如何ヲ問ハサルモノ
 如シ故ニ殘品甚稀ニシテ八九月以後ノ相場ハ該地ニ於
 テ成立スルヲナシ(該報告モ八月九月二ヶ月ノ相場ヲ記シ
 爾後ハ格段ノ異變アルニアラサレハ復タ別ニ通報セサル
 ベシ)
 氣多郡久斗村製糸場ノ器械系檢シ造ハ海外輸出ニ適シ稍
 々聲價ヲ得賣買價格モ賤シカラズトス蓋シ但馬ハ從來養
 蠶製糸ノ業開ケタリト雖モ其法太々迂拙ニシテ改良ノ途
 ナ知ラス頃年出石郡赤花村ニテ富岡製糸場ノ器械ヲ模造
 シ器械操ノ法ヲ創ムト雖モ同地ハ富國ノ僻陋ニ位スルヲ
 以テ普ク功用ヲ知ラシムルニ足ラス依テ更ニ氣多郡久斗

村ヲトシ一ノ製造場ヲ官設センヲ謀リ明治十一年五月
 建築据機ノ事ヲ終リ同年七月ヨリ製糸ノ業ヲ創メタリ此
 器械ハ神戸工作分局ニテ製造シ水車ヲ以テ運轉スルモノ
 ナリ從來該地方ノ養蠶家ハ蒸殺貯藏等ノ法ヲ知ラス一時
 生繭ヲ以テ賣買スルノ風習ニテ其不便利實ニ謂フ可カ
 ラス然ルニ製糸場建設以來此等ノ風習モ稍々改マリ繭ノ
 價格モ自カラ低賤ナラス精良ノ製糸ヲ操リ出スヲ以テ一
 般ノ人心大ニ此ニ感發シ養蠶ノ業次第ニ繁盛ニ趣キタリ
 養父七美二郡ニテハ座操器械ヲ供用シ檢シ造糸ノ數量ハ
 未ダ甚ダ多カラスト雖モ本年ハ稍々利益ノアル所ヲ了知
 シ其法次第ニ各所ニ傳播セントス蓋シ近來操糸ノ術ニ熟

練スルト丹後縮緬ノ如キ其品位愈精良ニ價直愈騰貴セシ
 ナ以テ其使用ノ製糸モ亦良好ナルモノヲ撰ムトナリ座
 操系ハ接近ノ地方ニ其販路ヲ開キ大ニ其便利ヲ得タルヲ
 以テ將來此法ハ愈開ケ其價ヲ増スヘキ景況ナリ其他手挽
 ノ品ハ又他郡ト異ナルヲナシ
 城崎美含兩郡ノ製品ハ大概丹後縮緬緯糸ノミニ用ヒ他ニ
 使用ノ道アルナシ故ニ縮緬ノ價騰貴スレハ從テ生糸ノ價
 ナ騰貴スルヲ常トス但當年收穫高昨年ニ比スレハ凡ソ二
 割ヲ増加セリ而シテ價格ハ昨年同月ニ比スレハ壹割ヲ増
 シタリ

本年繭ノ賣買ハ貳貫目ニ付四圓四五十錢ヨリ五圓三十拾錢

迄ノ價直ニシテ昨年ニ比スレハ繭貳貫目ニ付壹圓程ノ高
 價ナリ而シテ昨年生糸ノ價直ハ拾貫目ニ付三百八九拾圓
 (器械系ノ外)ナリシモ尙ホ利益ヲ得タル者甚ダ少シトス是
 ニ由テ之ヲ觀レハ本年ノ製糸ニ從フ者ハ現今ノ相場ヲ以
 テスルモ殆ント損益相償ハサルガ如シ故ニ生糸賣買ニ於
 テ大ニ躊躇スル所アリ蓋シ本地ノ繭ハ生糸ノ歩合僅少ニ
 シテ壹升ニ付少キモノハ五六匁ヲ得中等ニテ七八匁其拾
 匁ニ至ルモノハ幾ント稀ナリ是ヲ以テ其損益ヲ計算スレ
 ハ製糸家ノ収利少々ナルヤ知ル可キナリ

- 七美郡村岡
- 池田清躬
- 同郡同所
- 池口吉兵衛

城崎郡豊岡 原 莊 七
 久斗製糸場詰 杉 本 敬 威
 麻 相場ハ拾貫目ニ付テ筭ス

産地名稱	麻名稱	九月相場		十月相場	
		上旬拾五圓	下旬拾七圓	上旬拾七圓	下旬拾八圓
但馬國 <small>城崎郡 美含郡</small>	丸ゴキ	此時未ダ製法ニ 着手セス	上旬拾二圓	下旬拾三圓	
全國七美郡	扱 苧				

本年ハ春雨滋キニヨリ麻ノ生長至テ宜シカリシガ刈取前ニ及ンテ一種ノ虫ヲ生シ幹ヲ喰ヒ爲メニ損折スルモノ多ク平均六七分ノ作ナリトス元來但馬所産ノ麻ハ多ク漁網釣糸ニ用ヒ或ハ大船綱ヲ製ス蓋シ此等ハ皆農民ノ自製ニ

シテ製法至テ粗拙外觀ノ美アララス然レモ之ヲ海水ニ浸シテ久キヲ經ルモ其強韌ナルヲ全國内ニ於テ屈指ノ中ニアリ是ヲ以テ南海道及ヒ山陽諸國ニ遞送スル少シトセス而シテ漁師舟子ノ太タ貴重スル所ナリ城崎美含ノ諸郡ニ於テハ本年ノ收穫高之ヲ昨年ニ比スレハ壹割ヲ増加セリ價格ハ昨年同月ニ比スレハ貳割ノ高價ニシテ總テ之ヲ平均スレハ三割ノ増加ニ當ル景況ナリ

七美扱苧ハ其製太タ粗ニシテ船綱及ヒ絞油袋等ニ用ヒ續苧及ヒ布ニ用フル所ノ麻ハ別ニ精撰ヲ加ヘサル可カラス其價ハ製法ノ精粗ニヨリ格段ノ差異アリト雖モ之ヲ平均スレハ扱苧拾貫目ニ付金拾二圓五拾錢續苧拾八圓布一反

(凡二百三十拾目)ニ付八拾錢之ヲ昨年ニ比スレハ二割ノ高價ナリ其扱苧續苧ハ播州ニ輸出スルモ漁業ノ需求ニ充ツル能ハス布ハ西京ニ賣捌クモ運輸不便ヲ以テ價格ヲ昇ボシ隨テ販賣ノ道廣カラス要スルニ此邊麻苧ノ業ハ農業ノ餘事ニシテ活潑ノ買賣取引等アルヲナシ

池田清躬
池口吉兵衛
原庄七

綿

拾貫目ニ付テ筭ス

產地名稱

九月相場

十月相場

攝津國武庫郡
川邊郡

實綿

五圓三十錢

五圓四十四錢

操綿

拾三圓八拾四錢

拾四圓二十六錢

攝津ノ國ニテ綿花ノ產出最多キモノハ武庫川邊ノ二郡トス抑二郡ハ土地隣接シテ北ニ山脈ヲ帶ヒ南面海ニ向ヒ東西各五七里ヲ隔テ阪府神港ノ中間ニ居リ舟車運輸ノ便少シトセス而シテ其土質ハ概テ砂交リニシテ畊鋤ニ便ニ尤モ草綿ノ栽培ニ適應ス是ヲ以テ農夫ハ從來力ヲ綿産ノ業ニ盡シ頗ル熟鍊シタリ凡ソ一反歩ノ取額ヲ量レハ寡ナキモノハ實綿并四五貫目最多キハ六十五六貫目ヲ得ル者アリ其綿質モ稍優等ニシテ實綿拾貫目ヨリ穫ル所ノ純綿操綿三貫四五百目ヨリ四貫目ニ至ル殊ニ本年ノ如キハ天氣乾燥ニシテ温暖ノ適度大ニ之レカ助ヲナシ穀皮中ニ備ル

織緯充實シ破殻ノ綿絮品位善良ニシテ核子モ較細小ナル
 カ故ニ實綿拾貫目ヨリ四貫三百目餘ノ純綿ヲ獲ルニ至レ
 リ
 是ニ由テ之ヲ觀レハ本年ノ綿絮ハ平年ニ比シテ品位産額
 共ニ幾分カ優等ナルヲ豫知スルニ足レリ然レモ産出者ノ
 損益如何ヲ量レハ其得ル所或ハ以テ費ス所ヲ償フニ足ラ
 サル者アルカ如シ其故如何トナレハ農家ニ於テ培養調和
 ノ術ニ精シカラス只管從來ノ慣行ニ依リ其肥料ハ專ラ鱈
 魚ノ一品ヲ用ルコトス然ルニ其價格非常ニ騰貴シ十貫目
 ノ價二圓四五錢ニ至ル之ヲ一反歩ニ施スコト五十貫目内
 外ナリ其費亦大ナラヌヤ之レニ加フルニ灌水備夫ノ給額

ハ植綿地一反ニ付一作ノ間四圓乃至五圓余ヲ支出シ其他
 耕耘摘採及ビ地稅等一切ノ費途ヲ合スレハ既ニ二十余圓
 ノ費額ヲ要セサルヲ得ス此時ニ方リ綿産市場ノ景況ハ實
 綿十貫目ニ付五圓三十錢ヨリ五圓四十四錢余ノ賣買ニシ
 テ米穀等ノ價格ニ比スレハ非常ノ低價ニ居リ其不權衡ノ
 最甚シキ者ナリ

然リト雖モ是レ其原因ナキニアラス凡ソ飢饉ノ狀況ニ至
 レハ飲食物ヲ要スル最切ニシテ器物ノ如キハ全ク其價ヲ
 失フカ如ク本年ノ狀況殆ント之レト相均シキモノアリ本
 年五月以降米壹石ニ付六圓内外ノモノ駸々騰貴シテ九月
 ニハ殆ント十圓ニ超ヘントス是ヲ以テ今日ノ生計ニ困難

ナル者ハ前年貯蓄ノ綿絮ヲ舉テ之ヲ販キ米麥ニ換ヘ或ハ
 本年秋季ニ臨ミ絮殻破開ノ期至ルヲ遲テ綿絮ヲ摘取シ價
 格ノ如何ヲ顧ルニ違アラヌ直ニ之ヲ綿商ニ鬻キ以テ糊口
 ノ資トナス者蓋シ十中ノ八九ナリ是ニ於テ市場ハ一時綿
 絮ノ山ヲ作シ忽チ價格ノ權衡ヲ失シタルモノナラン然ル
 ニ新穀既ニ刈收ノ期ニ際シ又收穫ノ多キヲ認知シ米價漸
 クニ下直ニ趣クノ狀勢アルニ從ヒ糧食欠乏ヲ訴ルノ聲ハ
 索然トシテ止ミ綿花賣買ノ景況モ又自カラ一變シタリ今
 ヤ價格尙ホ未ダ低度ニアルモ又漸クニシテ騰貴スルノ期
 ニ至ルモ亦測ル可カラザルナリ
 以上陳述スル所ノ價格昂低ノ事情ハ獨リ近因ニ就テ起ル

所ノミ之ヲ掲ケタリ若夫レ遠因ニ遡リ外國貿易ノ關係如
 何ニ至リテハ又別ニ報道スル所アルベシ
 右 武庫郡役所ノ報ニ係ル

食鹽

產地名稱	食鹽名稱	九月相場	十月相場
播磨國赤穂	大俵	上旬 四十五錢五厘	上旬 四十八錢五厘
		下旬 四十八錢五厘	下旬 全
古濱	古濱	上旬 二十三圓	上旬 二十六圓
		下旬 二十七圓	下旬 卅五圓五十錢

大俵ハ一俵ノ量(三斗五升)ノ價ヲ掲ケ古濱ハ一俵ノ量
 八升五合ニ俵ヲ以テ一石トシ百石(二百俵)ノ價ヲ掲ク
 方今食鹽ノ相場ヲ報告スルニ先タチ數年前ニ遡リ産出ノ

量ト消費ノ高ヲ繹子以テ今時ノ相場ヲ生シタル所以ヲ考
 へ其事情ヲ開陳スルハ最モ緊要ノ事ナリト信ス
 明治四年以來年比リニ早シ全國ノ製鹽非常ノ巨額ニ上リ
 之ヲ需用ノ高ニ較スルニ可驚ノ超過ヲ致シ明治八九年ノ
 頃ニハ鹽業一年ノ休廢ヲ行フモ尙ホ内國食鹽ノ供給ニ於
 テ不足ヲ訴フル患ナカル可キニ似タリ此ノ如ク需用供給
 ノ高常ニ其平準ヲ失スルヨリ相場ハ日ヲ追テ下落シ得ル
 所ノモノ僅カニ炭薪ノ資ニ供スルニ過キス試ニ一昨十年
 ノ平均相場ヲ掲ケンニ赤穂大俵十四錢三厘余古濱百
 石八圓十五錢トス是ニ於テ鹽業頓ニ衰頽シ破産流亡ノ徒
 亦尠トセス是ヨリ先十州(播磨備前備中備後安藝周防長門

伊豫讃岐阿波)ノ同業中相場ノ下落ハ其濫製過造ニ根スル
 ナ謂ヒ製鹽ノ制限ヲ立ンコト諸國ニ遊說スル者アリ然レ
 凡鹽田ノ廣キ同業ノ多キ其議竟ニ能ク行ハレザリシガ此
 ニ至テ彼ハ盟約ヲ尋キ十州會同商議シテ互ニ休業制限ノ
 法ヲ結約セリ是ニ於テ順序稍整ヒ加之ナラス昨十一年ハ
 降雨モ前年ヨリ多クシテ製産上自然ノ妨害アルニヨリ相
 場モ余程持直シ一ケ年ノ平均相場大俵二十八錢余古濱十
 六圓七錢迄ニ騰貴セリ
 本年ハ一月ヨリ引續キ雨天ナルニヨリ船手(船ヲ艤シテ買
 出シニ來ル者)ハ兎角跡張りノ見込ヲ以テ買進ムト當春來
 諸物價ノ騰貴スルトノ矩合ニ依テ鹽價モ漸次ニ騰貴シ三

月頃ニハ大俵三十五、六錢古濱十七、八圓ナリシガ六月下旬ニ至リ大俵六十二、三錢古濱三十五、六圓迄ノ高價ニ及ヒタリ然ルニ七月上旬以來意外ノ晴天ニテ産出非常ニ増加シ船手ハ一時意外ノ損失ヲ來シタリ此ノ如ク船手モ大ニ其目的ヲ誤リタルヨリ再ヒ前轍ヲ踏マンコトヲ恐レ復タ一向買進マス賣手ハ益弱氣ニテ賣急クヨリ八月初旬ニ至リ相場少々下向キ下旬ハ大俵四十五錢、五厘古濱二十二圓迄引下ケタレヒ九月上旬ヨリハ天氣モ稍陰雨ヲ催シ且平年休業ノ期既ニ近キニアルヲ以テ賣手ハ少々強氣方ニテ賣急カサルヨリ下旬ニ至リ又復前表ノ如ク少シク騰貴シ本月ハ矢張同様ノ氣配ニテ双方白眼合

ノ姿ナリシカ中旬以來晴天打續キ少シハ弱キ方ナレヒ畢竟休業ノ期近キニアレハ著シキ下落ハアラザルヘシ
赤穂郡尾崎村 山本幸次郎 報

告示

- 一油 桃 九十二本 一櫻 桃 七本
- 一桃 四百二十一本 一梅 三百七本
- 一李 三百四十一本 一杏 四本
- 一梨 四百二十四本 一苹 菓 二千五百二十五本

(以上何レモ一本ニ付一錢五厘ヨリ二錢五厘迄)

本紙第五号告示ノ外右ノ菓樹今般拂下候ニ付望ノ者ハ至急本縣勸業課ニ申出ヘキ旨各郡役所戸長役場ヨリ揭示ア

ヲシテ希望ス

○宮城縣博覽會

陸前國仙臺區片平町ニ於テ本年八月十日ヨリ十月八日迄日數六十日間

○三重博覽會

伊勢國安濃郡津公園内ニ於テ本年四月一日ヨリ日數三十日間

○堺博覽會

大和國奈良大佛殿内ニ於テ本年三月十日ヨリ向八日間

右開設ニ付規則書相添右三縣ヨリ通知アリタルニ依リ務メテ各種ノ物産及珍器等出品スヘキ様便宜勸諭アラシムヲ希望ス

但規則書ハ本課ニ備エアレバ就テ一覽スベシ

○此報告ノ配付ハ管内各郡役所、戸長役場、縣會議員、通信委員及諸省局使各府縣、新聞社、諸會社等ノ勸業ニ關スル事件ヲ平時臨時ニ通信交換スルモノニ限り其部數ハ二千五百

部ニ過キサルヲ以テ未ダ普ク各人民ニ通知スルニ及ハス依テ此報告ヲ受クルモノハ廣ク衆人ニ其旨趣ヲ懇諭シ又有益ノ事件アレバ務メテ本課ニ報告アラシムヲ希望ス聞ク某戸長役場ニ於テハ報告配布ノ都度毎月數回衆人ヲ集メテ細カニ講演シ或ハ村内有志ノ人又ハ學校教員等ニ回付シテ之ヲ讀マシムル等ノ事アリト是誠ニ良法ト云フベシ
縣會議員ハ資産ヲ有シ名望ヲ該ヌルノ人ナレバ既ニ報告書配布ノトトナリタルヲ以テ該員ニ於テハ殊ニ心ヲ茲ニ用ヒ或ハ自ら率先シテ試験ヲ行ヒ又ハ他人ヲ誘導獎勵シテ報告ノ効用ヲ普及セシメラレシムヲ希望ス

此報告ハ固ヨリ確實正當ナ期スベカラザルモノナレバ宜シク實地ニ就テ之ヲ驗察シ其誤謬粗漏ノ件ハ痛ク其非ヲ辨シ本課ニ忠告セラレシヲ殊ニ茲ニ請願ス

編者識

○今般當府下東横堀博物場内へ出品委託引受所設置爲致候間爲御心得及御通知候也

右ノ通本月十二日附ヲ以テ大阪綿砂糖共進會掛ヨリ通知アリタルニ付出品主自カラ出場シ及代理人ヲシテ出場セシメガタキモノハ右委託引受所ニ宛テ出品ヲ輸送シテ陳列方依頼スベシ

雜報

○本李米桃^{ホレスモ、コチモ、}ブンタン三種の菓木を鹿兒島産にて其實尤大よ味尤佳なりと聞及ひしが湊川神社々内ニ數十本植付ありしものと一二株宛貰ひ受け植物園ニ試植せり追々繁殖せしめて各郡へ配布乃積なり

○支那九江産青魚外二種生育の景況を報告第五号ニ掲げたる通りなるが爾來滋賀高知等乃諸縣より魚兒分配方依頼なりたれ共判然たる魚兒を見當らざるより尙其繁殖を謀らんが爲め先般内務省勸農局に照會し搾卵法ニ巧みなもの一名差越され度旨を依頼せしむ此頃同局より承諾乃旨回答ありたり

○瓜哇米の收穫多くして米質乃精良なるは世界中に轟き

しも乃なるが本縣植物園よても一昨年これを試植せしに
 稗穂を珍らしく長大なりしも季節の後れし故か實り甚た
 惡かりしに昨年又其種を播きたるより生立宜からざりし
 よ付き三月中更に該種穀を送致あらん事を勸農局へ照會
 せしよ此頃始めて到着せり試植の上結果の如何を更に詳
 報すべし

○此頃勸農商務兩局の共進會委員より繭絲共進會審査報
 告の第一号を送られたるが出品の総人員を千百二十二名
 にして品數千三百二十六内繭五百二十二品よして糸八百
 ○四品なり而して其出品人員の尤も多きを埼玉(百七十九
 名)福島(百三十五名)長野(百三十三名)乃三縣なり然るに本縣

乃出品を僅に但馬の製糸場と同國出石郡橋本龍一乃二品
 よして龍一を四等賞を受けたり

○支那種柞繭はるの雄蝶を皇國在來山繭の雌蝶よ交尾せ
 しむるか又柞繭の雌蝶を我山繭よ交尾せしむれば至極良
 好の繭を得るとの事を聞及ひ豫て養蠶篤志なる七味郡村
 岡池田清躬津名郡大町村廣田貫一郎の兩人より該繭購求
 方願出てしに依り今般開拓使出張所第三号園内高木元真
 なるものより該繭十個を買受け右兩人よ拂下けたるが元
 來此繭を二回(四月下旬七月中旬)蝶よ化志て産卵するもの
 にてこれを飼養するよえ鳥雀蜂蝶及俗に糞蠅と唱ふるもの
 の等の害を蒙らざる様豫防する事最緊要なる由

○豫て大藏省商務局の照會より依り綿、麻、鹽、生糸四品乃調査
 と先般夫々依頼せしよ播州赤穂郡尾崎村山本幸四郎(鹽)攝
 州武庫郡鳴尾村高須喜右衛門(綿)但馬國城崎郡豊岡滋茂町
 原庄七全七美郡村岡殿町池田清躬同東本町池口吉兵衛全
 養父郡夏梅村鎌田三郎兵衛全二方郡丹上村中井良造同郡
 湯村丸上米次郎全美含郡森村福本新太郎以上七名麻生糸
 乃九名其選に應じ本号管内通信の部より掲けたる報告を夫
 々寄送せしが右を何れも實地に熟練し且業務上篤志乃も
 のなるに依り頗る確かなる報告と思わる

○昨春以來有馬郡三田の士族が結社志て陶器の製造を始
 め専ら輸出を目的として規模を盛大なせんと企て此

頃製品數個を本課に持來り評價を願出たるが随分相應の
 出來なれば賣方も宜かるべし

○去十二月岡山縣より備前備中の沿海よりは貝類の蕃殖よ
 よき處なれば當縣攝州川邊郡沿海より生ずる烏貝と唱ふる
 ものを試養したきより付き送致ありたき旨照會になり送致
 の手數に及ひたり

○第二内國勸業博覽會出品乃事に付ては過般より課員出
 張して調査せしよ但馬國出品の總人員は二百九十八人に
 して内七美郡二十三名二方郡二十五名美含郡二十六名城
 崎郡三十二名氣多郡四十三名出石郡四十四名養父郡五十
 八名朝來郡四十八名の多きより上れり尙其他乃各郡にて

多く出品を願ひ出る趣なり

○但馬國を從來養蠶適應の地なれ共繰糸養蠶の方法其宜しきを得てして外國乃輸出にもならざるを憂ひ一昨十一年官費を以て同國久斗村に器械取製糸場を設立し専ら製糸の改良を謀りたる事を本紙に記載せしが爾來該地方の者も頗る着意するもの多く且久斗村製糸場乃製糸も次第に精良となり既去十一月生糸百貫目余熨斗糸四十四貫目余又十二月末生糸四十四貫目余熨斗糸二十七貫目余を横濱乃生糸商外村兩平に托し賣込を依頼せしに十一月の品を七百二十弗替十二月の分を七百三十五弗替に賣捌け各當時の上等相場に至れり此頃右外村氏より本課員に送

られたる書狀乃一項を拔萃して左に證示す

御製糸を各館よて大に評判宜敷最も品位上等なる事を無論故に追々望人多く此度賣込候商會にても此次の御荷物も必買取度由懇々申居候又外館にても追々相尋候もの有之實に高名の御製糸よ付下店にても精々盡力賣却可仕候間乍恐御製糸に於ても御盛大の程奉願候云々

○本縣設立の姫路棉糸紡績所も全く其建築の工を竣り昨明治十二年十二月十六日を以て開業の式を行ひたり其機械代價建築の費用等も後号に掲載すべし

○明治十三年郵便規則頒布相成たるに付緊要の部を拔萃して左に示す

一凡ソ勸業上ニ係ル通報或ハ質問應答書及之ニ属スル册子繪圖等ヲ勸農局ト地方官又ハ各地方官并郡區長農事通信委員ノ間及勸農局或ハ地方官ト人民ノ間ニ互送スルモノハ上包之レナキカ上包アルモ開キ封ニテ差出スニ於テハ目方十六匁迄無稅遞送ヲ許スベシ若シ十六匁ヲ踰ルモハ其過量ノ分ハ書籍定稅ノ割合ヲ以テ其稅ヲ拂フベキ事一右同斷ニ付互送スル種子或ハ見本或ハ試驗品等前節ノ手續ヲ以テ差出スニ於テハ目方三十二匁迄無稅遞送ヲ許スベシ若シ三十二匁ヲ踰ルモハ其過量ノ分ハ商品見本品ノ稅ヲ拂フベキ事

一此郵便物ハ總テ其表面ヘ朱ニテ勸業事務ノ文字ヲ記載

スベシ其記載ナキモノハ尋常ノ郵便物トシテ取扱フベキ事

一右郵便物ノ名宛ハ其官省院使府縣等ノ長官又ハ郡區長ノ氏名或ハ官名ヲ以テスルニ限ルベシ若シ私ノ音信ガ、リタル文意之レアル節ハ其受取人ヨリ書狀先拂ノ例ヲ以テ其稅ヲ拂ハシムベキ事

但若シ受取人ニテ其稅ヲ拂ハサル節ハ其郵便物ヲ相渡サス之ヲ差出人ヘ相戻シ三倍ノ稅ヲ拂ハシムベキ事

一郵便及郵便爲替貯金預リ等郵便ノ事務ニ就テ驛遞局及郵便局ヘ宛テ差出ス分并其事務ニ就テ官衙ノ間ニ往復スル郵便物ハ總テ無稅ノ事

一右ノ書狀ハ其官長或ハ課長等ヘ相宛テ且表書ヘ郵便ニ

二
郡互ニ参考スル所アラシメントス獨リ憾ラクハ管内七
八郡猶ホ未タ記載スベキノ報告アルコトナシ思フニ此等
ノ諸郡モ漸次其緒ニ就キ各郡ト均シク報道シ來リ全管
下一般ノ景況ヲ一紙中ニ列載シ完全ノ報告ヲ得ルノ日
アルヤ竊カニ期シテ待ツ所ナリ
○八部郡 十二月廿七日 谷勘兵衛報

稲田收穫ノ實況

本郡各村田方收穫ノ景況ヲ視ルニ固ヨリ一樣ナラサレモ
老農ノ言ニ依テ之レヲ概論セハ上中下平均壹反歩ノ收穫
米凡壹石六七斗ナルヘント之ヲ昨年ニ比スレハ凡三四斗
ノ増加ナリ本郡五月初旬ヲ以テ粃種ヲ浸シ順次苗代ニ蒔

キ發芽ノ后六月中旬之ヲ水田ニ植付十一月初旬ニ至リ蒔
入ル、モノトス本年氣候五六月ノ間時雨其宜キヲ得テ生
長甚良シ故ニ農夫ハ豫ノ充分ノ收穫ヲ得ヘキト憶度セシ
モ七八月ノ間炎威猛烈遂ニ河水竭キ池井乾レテ灌溉ノ路
ヲ失ヒ又郡中ノ一半ハ其耕地連山曲谿ノ間ニ位シ川水ヲ
引クノ便ナク人力ヲ勞ソ田ニ灌ク又一半海濱ニ接スルノ
地ハ人力ヲ以テ井水ヲ汲ミ僅カニ其田ニ灌クモ地質砂地
ニシテ水ハ直チニ砂中ニ沈ミ早損ノ患ヒ山間海濱共ニ免
レサル所ナリ七八月中ハ田面乾涸ノ裂紋ヲ生セシモ九月
ノ潤雨ニ依テ稻田ノ景況ヲ挽回セシモノ、如シ然リ而シ
テ數村ノ中東西尻池及ヒ妙法寺等ノ村落ハ非常ノ旱魃ニ

テ其收穫ノ如キハ平年ノ三分ハニニ過キスト云フ

麥作ノ景況 二月二日 前同人報

本郡麥作ノ景況ハ下種ノ際天候晴朗ニシテ耕耘施糞ニ便アリ且發芽以來順次氣候適宜ニシテ總テ豐熟ノ良兆ト謂フヘシ麥ハ寒中氣候温暖ナルキハ勢力葉ニ集リ性質孱弱ニシテ往々收穫ニ不十分ヲ來ス本年ノ如キハ蒔入時節ヨリ氣候平順寒威銳キニヨリ形容蟠ガ如ノ氣力十分根ニ籠リ寔ニ其宜ニ適ス

○有馬郡 一月五日 高田市之助報

本月ハ寒氣薄ク且降雨稀レニ麥ハ總テ(大小裸麥トモ)生立宜シ嘗テ老農ノ言ヲ聞クニ寒ノ定度ニ過クルキハ猥リニ

葉ノミヲ長シ根配リ惡シク降雨ノ多ナルモ亦タ然リト而

ルニ終月コノニ患ナシ故ニ左ノミ葉ハ伸延セサレ根根抵

頗ル強ク目今ノ形狀頗ル昌盛ノ色アリ

菜種ハ先月來稍衰弱ノ狀ナリシモ本月中適度ノ天育ヲ受

ケ大ニ回復ノ期ニ至レリ

商工異事ナシ麥價ハ依然トシテ動カス米價ハ本月末頃少

シク下落ノ方ニ趣ケリコレ全ク今歲ノ豐稔ニ由ルナルヘ

○明石郡 十二月廿六日 安原植之、栗崎道義報

本郡裸麥小麥蒔付季節ハ十一月晴天打續キ氣候極メテ暖和ナリ依テ其萌芽ヲ發生スルヲ通年ニ比スレハ四五日間

モ速ニシテ目今萌芽二寸乃至三寸、余ニ及ヘリ頃口中揚ト唱エ、鋤ヲ以テ畦畔ノ兩側ヲ削落シ其土ヲ細碎シ麥株ヲ庇覆ス肥料ハ千鰯凡ソ四五貫目ヲ溜水拾四五荷ニ混和シ以テ麥株ニ灌ク(壹荷ニ付二斗四五升程)早キハ二回晚キハ一回ナリトス菜種ハ麥作ノ法ト培養大略相同シ十月初旬ヨリ米穀上中下平均ヲ以テ計算スルニ依然トシテ壹石ニ付七圓五拾錢以上ニ居リ下等工商業ノ者ハ米價ノ騰貴ニ因リ一時不景氣ヲ唱フルト雖モ之ヲ諸物價ニ比スレバ八圓以上ニアラサレハ其平均ヲ得サルモノニ似タリ但客年十二月ハ一般酒造米買入ノ季節ニテ米穀商賈ハ一層繁盛ナリ

○美囊郡

一月廿五日

大野圓次郎、武間謙報

本郡菜麥耕作ノ状況ハ客年七月八日付ヲ以テ勤業課ニ通報セリ今ヤ郡内米、綿、大豆、從來耕種ノ慣行及ヒ去明治十二年耕作ノ實況ヲ調査ス抑農事上各地從來ノ慣行ト現時取入ノ成績トヲ參觀シ取捨折衷之ヲ實用ニ供セハ亦以テ補益ナシトスヘカラス故ニ菜麥ノ報告ト次グニ米綿等ノ景況ヲ以テシ滿一ケ年間施行スル所ノ慣行ト其成績トヲ詳ニシ則チ明治十二年農事ハ年報トシテ報告ス米、綿、大豆ノ耕種法俱ニ精密ノ調査ナリト雖モ紙數頗ル多キヲ以テ逐號之ヲ分載セントス

○加古郡

一月十五日

長井政太郎、八木虔介報

裸麥ハ播種ノ際氣候温暖風雨稀少ナルヲ以テ時期ヲ誤ラ
ス耕鋤モ亦容易ナリ本年播種ノ反別畑方ハ平常ノ如シト
雖モ田方幾分ヲ増加セリ小麥ハ裸麥ト大同小異
菜種ハ其景況ハ裸麥ト稍々同シト雖モ近年種子廉價ノ故
ヲ以テ反別幾分ヲ減ス植付ノ期平年ニテハ翌一月下旬ニ
及フト雖モ昨年ハ幸ニ氣候宜キヲ得十二月中多クハ植付
ヲ終リタリ

工事商況俱ニ異ナルヲナシ

○加東郡 (十二月中)

當月ハ天氣續キニシテ菜麥等ノ手入十分ニ抄取リタリ十
五日夜降雨激雷ス氣候ハ稍々暖ニシテ不順ナリ然モ乾燥

ノ際此雨潤ヲ得タレハ作物ニハ大ニ宜シト云フ

○加西郡 十二月及ヒ一月 和田重威、内藤圓次郎報

稻ノ收穫ハ前ニ報告セシ如ク多少旱損及ヒ虫害ニ罹リタ
ルモノアリト雖モ平年ノ作ニ優ル所多シ

綿ハ畑方ハ旱害ヲ被リ平年ノ收穫ヨリ五割余ヲ減シ田方
ハ薄害ナレハ七八分ノ作ナリトス

大豆ハ旱損ノ爲メ平年收穫ニ四割乃至五割ヲモ減シタル
景況ナリ

麥ハ播種ノ時機宜シク生育ノ妨アルヲナシ

蘭ハ移栽ノ時機ヲ失セサルニヨリ生長尤モ宜シ

○飾西郡 十二月及ヒ一月 野口一貫、井上元報

稲作ハ晩稻ノ取量最モ多ク殊ニ刈取ノ際連日天晴レ之レ
カ爲メ速カニ取納ナリ且比年汚濕ノ地モ尤モ能ク乾燥
シタルヲ以テ麥作ノ播種地モ近年稀有ナル多クノ反別ヲ
仕付クルヲ得タリ其後氣候順ニシテ手入モ行キ届キ目今
ノ景況何等ノ患害アルコトナク菜種植付モ平年ニ異ナラス
ト雖モ多ク麥作ヲ仕付クルニヨリ自ラ減少ノ景況ナリ
○揖東郡 一月上旬 郡役所 報
稲作ハ無比ノ豊熟ニシテ收穫均二石四斗許ナリ麥ハ蒔付
ノ期無比ノ好天氣ナルヲ以テ生長極メテ宜シク因テ例年
蒔付ケ成リガタキ下田濕地モ本年ハ十三七八下種スルヲ
得タリ

菜麥生長充分ノトコロ連日ノ牢晴ニ壓迫サレ聯カ枯葉ヲ
見ハセシニ月末ノ降雨ニテ全ク挽回セリ
蠶豆豌豆モ前狀ト相同シ
工業ハ物價騰貴ノ影響ニヨリテ自カラ不景氣ノ兆ヲ現ハ
シ商業ハ稍々繁盛ノ情況アリ
本郡素麵製造家百數十戸アリ碎粉高概子一万石製造高概
一函拾貫目詰三万函價額一函三圓概子九万圓也抑モ此ノ
製造ノ創始タル今ヲ距ル僅ニ五十有年ニシテ今日此ノ繁
殖ヲ致セリ猶之ヲ協同連和シテ愈盛大ニ至リ益々改良ノ
途ヲ開クハ其利益愈大ナルニ至ル可シ頃日製造家此ニ
見ルアツテ改良ノ結果ヲ奏セントスルノ情勢アリト云フ

○赤穂郡 一月六日

森續磨久保治郎報

麥作播種ノ際ヨリ季候温暖ニシテ麥苗ノ生育少シク、度ニ過クルノ景況アリ然レモ歲梢ニ至リ寒威漸ク酷ナルヲ以テ相應ノ生育ニ至ルヘシ

商工業ノ景況ハ新穀ノ登場多カラズ價額騰貴スト雖モ一般物品賣捌ケヨク工業モ隨テ閑ナラス農家餘裕アルノ致ス所アラシカ

○佐用郡 (十一月中)

本月農事景況稻梁其他収量ノ如キハ前月ニ報シタル如ク春夏ノ際ヨリ氣候順序ヲ失ハス加之熟實ノ間モ亦連晴ナルヲ以テ米豆ノ如キハ十分ノ作トス殊ニ早稲ノ収獲多量

ニシテ上等田ニ二石五斗余ヲ得タル處アリト云フ凡ソ平年収獲ハ晚稻ヲ第一トシ中稻之ニ次キ早稻尤モ少シトス然レモ早冷ノ地ニアリテハ麥蒔ノ期後ル、ヲ以テ多少晚稻ヲ作ラス中稻ヲ以テ其土地ノ氣候ニ適スルモノトス蓋シ本年ノ如キ早稲ノ多量ナルハ常年ニ異ナル處ナリ綿ハ着花ノ際風雨ノ障害ヲ被リシニヨリ平均五分以下ノ作トス今左ニ収獲ノ概略ヲ掲ケテ一般ノ景況ヲ示ス

上等村ニシテ	上等田反當	中等田反當	下等田反當
早稻	二石五六斗	二石三斗	一石八斗
中稻	二石五斗	二石二斗	一石七斗
最上	三五斗		

晚 稻	二石五斗	二石三斗	一石六斗
	上等畑反當	中等畑反當	下等畑反當
大 豆	一石二三斗	一 石	六 七 斗

本郡商工業ハ農事ノ補事ニシテ盛衰ノ微見候ルニ足ルモ
 ノナシト雖モ夏秋以來諸物價騰貴スルヲ以テ自カラ繁盛
 ノ景況アリトス

○同 郡 (十二月中)

江 見 展報

本月農事景況別ニ異ナルヲナシト雖モ前月以來牢晴ニシ
 テ氣候甚タ暖ナリ故ニ麥芽生立宜シ尤モ冬氣過暖ノ年ハ
 麥芽虫入麥芽アカクナルナリノ憂アリト雖モ本年ノ如キ

ハ其害アルヲナシ

商工ノ景況前月ニ異ナルヲナシ

○氷上郡 十二月廿七日

田 艇吉報

稲作ノ景況ハ氣候畧度ニ適スト雖モ九月下旬ニ及ヒ冷風
 頓ニ到リ爲メニ幾分ノ響影ヲ與フ然リト雖モ遂ニ大害ア
 ルニ至ラス所謂二百十日ノ頃又暴風雨トシ今其收額ヲ算
 スルニ多キハ壹反二石ヲ收メ其少キハ壹反ニ一石二斗ヲ獲
 之レヲ要スルニ近年稀有ノ豐穰アリトス
 綿作ノ景況ハ氣候稍冷ニ過キ其花多キモ實少ク加フルニ
 一種ノ蟲害アルヲ以テ遂ニ十分ノ收穫ヲ得ス蓋シ中ノ上
 ノ作ナリトス其價ハ大抵量目壹貫目ニ付壹圓三四十錢ヨ

リ五十錢ノ間ニ位セリ
 大豆ノ景況ハ莖多キモ莢少ク莢多キモ實少シ其收穫ハ平均壹反六七斗ヲ得タリ蓋シ又中作ナリ其通價ハ大約壹升七錢ニ出入ス小豆ハ畧上作ナリ其通價ハ大約壹升七八錢位ナリ
 葉烟草ハ中ノ上ノ作ナリ其收穫ハ壹反ニ付平均百四五十斤許トス
 大根蕪青是又中ノ上ノ作ナリ其收穫ハ大抵十分ノ六七ナリト云フ
 其他大小麥作等ノ如キハ未タ以テ著シキ景況ヲ見ル可カラスト雖モ其發生頗ル盛ンナリ

商業上著シキ現象アルヲナシト雖モ米價ノ高低ハ凡ソ左ノ如シ

九月中米價九圓ニ位シ十月ニ至リ八圓五十錢ニアリ十一月中七圓乃至七圓五十錢ノ間ニ昇降ス大抵本郡米價ノ昂低大阪相場ヲ率トスル者ノ如ク例ヘハ大阪ニ八圓ヲ價スレハ忽チニシテ七圓二三十錢ヲ價シ又七圓ヲ位スレハ又忽チニシテ六圓三四拾錢許トナルノ類ナリ

○多紀郡 一月十四日 園田亮八報

本年ハ冬期後絶テ雨雪ナク氣候極メテ温暖近來稀レナル年柄ナリシカ月末西北風俄カニ起リ凍雲密閉晝尙ホ暗ク時々雨雪四山白ヲ戴キ池水凍合連日解ケズ寒暖計三十四

度乃至三拾六度ニ上下シ實ニ非常ノ奇寒ナリ故ニ麥菜種及ヒ豌豆等稍々傷害セラレタルガ如クナレトモ爲メニ根抵ヲ鎮壓シ自然培養ノ法ニ適シタレハ蓋シ春分後暖日和氣ヲ得テ充分豐熟ヲ得ルナルベシ里俗傳ヘ云フ冬期雨雪ノ多キハ明年豐作ノ兆ナリト豐家老幼頗ル喜色アリ米ハ秋收後陸續村落ヨリ持出シ市場ニ販賣スト雖モ月初酒造家等需求ノ多キ故ナルカ價直頻リ騰貴シ一時八圓以上ニ登リタレモ月末頃ニ下落殆ント七圓以内ニ及ハリ蓋シ歲抄金融益閉塞シ需求爲メニ減シ供給者ハ金ニ代キント欲スルノ念愈多キヲ加エタル故ナラン菽ハ日ヲ逐テ其價ヲ騰貴シ目今壹石ハ價九圓以上ニ登レ

り客歲冬期ニ比較スレハ實ニ三割八分強ノ騰貴ナリ但シ本郡ハ米菽ノ二種ニ限り古米乘ト唱ヘ五舛ヲ加ヘ實入壹石五舛ヲ以テ壹石トス故ニ本郡ノ價ヲ以テ他郡ニ比スレハ權衡其當ヲ得サルノ疑アルベシ

木材並薪炭其價格非常ニ騰貴シ昨年十二月中代價三十錢以内ニテ販賣セシモノ目今五十錢内外ニ登リ殆ント六割六分余ノ増加ナリ蓋シ本郡ハ從前舟車ノ便ナク更ニ他國ニ輸出スルノ利ナカリシガ近年運輸ノ便漸ク開ケ且諸國頗リニ土木ノ功ヲ起シ木材ノ需用尤モ多キヲ以テ各人競フテ巨木良材ヲ伐採販賣シ又雜木ハ製茶焙爐用ノ爲メ頗ニ需求ヲ増加シ年々多量ノ炭ヲ賣リ出シ郡内漸ク材料ニ乏

シキ現況アルヲ以テナリ

○出石郡 (十二月中) 谷野 孝報

稻ハ五六月ノ交南風常ニ多ク天氣暗曇ニシテ雨氣殊ニ繁ク爲メニ播種(田植)ノ時ヨリヌカ虫蕃生シテ苗ノ生立最モ弱ク葉垂レ株縮ム(山間最甚シ然レモ)八九月ニ至リ天氣晴和風雨順ヲ得テ最前ノ萎靡ヲ挽回シ幸ニ良結實ヲ得ルニ至ルト雖モ嫩苗ノ害遂ニ恢復スル能ハス故ニ十年平均八九歩ノ間ナリ
大豆ハ三分作ナリ
蕎麥ハ莖最弱キヲ以テ收實ノ際一旦暴風ニ逢フハ忽チ

萎靡スルモノナリ然ルニ九十月其災ナキヲ以テ收實最モ多ク平均十二分ノ作ナリト云フ

○同 郡 一月十四日 前 同 人報

八九月頃ヨリ降雨太々稀ニシテ暖暄春ノ如ク收穫米ノ乾燥スルヲ頃年無比ナリトス此ノ温度ノ爲メ麥畦繁ク雜草ヲ生シ其生長ヲ妨ク依テ例外一二度中打シ以テ雜草ヲ除去スル處アリ

本月下旬ニ至リ梅蕾各處ニ綻ヒ溪間開花ヲ見ル又稀ニ菜花ノ開ク處アリ二十一日始テ雪降ル厘カニ草木ヲ裝點スルノミ該地ハ元來雪國ニシテ年々冬春ノ交多キハ七八尺少キハ二三尺地上ニ堆積セサルハナシ然ルニ近年又此ノ

如キ大雪ヲ見ス但麥菜ノ如キ素ヨリ積雪ノ抑壓ヲ期シ早
ク播種スルモノナルニ若シ積雪ナキ時ハ新芽自在ニ生長
方言フクトウシルト云フシテ充分ノ良實ヲ得難キノミナ
ラス頗ル害アルモノトス

米價ハ七圓ヨリ七圓七八拾錢ニ及ヒ時々高低アリ隨テ諸
物品又騰貴ノ姿アリ

○養父郡 (十二年中)

土岐久則報

農産ハ地方ニ依リ聊平年ニ降ルアリト雖モ概スルニ各地
水旱損ノ患ナク各種平均生熟ヲ得殊ニ價格騰貴スルヲ以
テ農家ニ於テハ近來無比ノ樂歲ト稱スヘシ唯小作者ニ至
テハ地主ニ對シ免ヲ乞フヘキ術ナク高價ノ米ヲ買入ル

ヲ以テ聊苦情アルカ如シ養蠶ハ所得充分ナラスト雖モ繭
糸ノ價高貴ナルヲ以テ其收利ニ於テハ他年ニ讓ラス商勢
ハ稍進歩シ殊ニ道路開通ノ便利ヲ得テ一層繁榮ノ端緒ヲ
輔クルアルカ如シ

工ニ至テハ別ニ舉示スヘキモノナシト雖モ製糸ニ係ル小
器械ノ如キ往々之ヲ試用スルモ有テ猶進歩ノ勢アリ獨リ
朝來郡生野町ハ部内第一ノ市街ナリト雖モ從來鑛業ニ依
賴スルノ風習ニ泥ミ復タ他ノ事業ニ勉勵スルノ氣力ナク
依テ衰弱ノ情況ヲ現ハセリ之ヲ要スルニ昨年ニ比スレハ
稍繁榮ニ趨クヲ覺ユ其車類及牛馬賣買等營業者ノ増加ス
ルヲ以テ之ヲ徵スルニ足ルカ如シ今左ニ比較表ヲ掲ケ明

治十二年中ノ概況ヲ報道ス

車類及牛馬賣買人増減比較表

種目	十二年一月現在	十三年一月現在	差引増
人力車	百九十九輛	二百七十七輛	七十八輛
荷車	二百四十六輛	四百廿九輛	百八十三輛
牛馬賣買人	四百七十三人	四百八十六人	十三人

○七美郡

地勢峰巒重疊村落其間ニ散在セリ道路狹隘ニシテ車馬ノ便ナク川路又狹小ニシテ舟楫ノ利ナシ然レモ地質稍肥沃ニシテ最モ桑麻養蠶牧牛ニ適ス氣候ハ其地路間ニ位ス

ヲ以テ寒氣殊ニ烈シク平年冬季積雪六尺余ニ至ルヲ常トス極寒華氏寒暖計凡二十七度ニ降り酷暑大約九十二度ニ昇レリ人情ハ頗ル朴實ニシテ温厚ノ風アリ郡中郵岡町ヲ以テ繁盛ノ地トス該町ハ戸數凡ソ四百戸ニシテ農商ヲ營ミ生計ヲナスモノ多シ該郡元山名因幡守ノ采邑ニシテ當時其藩邸ヲ此町ニ置ケリ現ニ土族四十余戸ノ多クハ農商ニ歸シ租前途ノ目的ヲ定ムルモノ、如シ物産ハ繭凡二万三千圓(牛一万二千圓)麻芋二千圓)ヲ重要トスモノトス

○二方郡

地勢東南ハ美舍七美ノ兩郡ニ接シ西ハ因幡國岩井郡ニ界シ群峰連亘其狀崔嵬獨リ北方海ニ面シ稍闊豁平坦之地

リ沿海ハ東美含郡余部村ニ接シ西ハ因幡國岩井郡陸上村
 汐噴岬ニ界ス海岸ハ総テ岩石斗出シ船舩碇泊ノ灣港渺ナシ
 蓋シ諸寄港ハ北海通船ノ碇泊スル處ナルモ港口狹隘且港
 門ニ一ツノ岩礁アリ爲メニ大船ヲ容ルノ便ナシ沿海ノ
 村落ハ漁業ヲ以テ生活ヲナスモノ最モ多シ氣候ハ極寒華
 氏寒暖計三十度酷暑九十度ニ至ルヲ常トス人情ハ概シ浮
 薄固陋ノ弊風アルヲ免レスト雖モ頻年世上文物閉進ノ風
 潮ニ波動セラレ漸ク風ヲ移シ俗ヲ改ムルノ情態アリ郡中
 濱阪村ヲ以テ繁盛ノ地トス該村ハ海濱ノ一村落ニシテ海運
 ノ便アリ且戸數千戸ニ近ク村民多クハ工商ヲ營ミ生計ヲ
 ナスノ風俗ナリ產物ハ針一ヶ年製造高價凡ソ二万圓(牛九

千圓)繭八千圓(苧四千圓)等ヲ重要ナルモノトス

○但馬國牛市場概況 一月廿四日

牧畜掛 加藤 懋報

該地ノ牛市場ハ二ヶ所アリ一ハ七美郡村岡町一ハ養父郡
 養父市場村ナリ村岡町ノ牛市ハ毎年十二月中旬ニ初リ一
 月上旬ニ畢リ養父市場ハ一月上旬ヨリ同月下旬ニ至ル從
 來但馬國農家ノ慣法ニテ年々生産スル牡犢ハ渾テ其年七
 八月ノ頃(牡犢ハ六ヶ月經テ母牛ヲ離スヲ以テ該地一般ノ
 慣法トス)因伯及ヒ隣國ニ販賣シ牡犢ハ之ヲ前ノ牛市場ニ
 牽出シテ賣ルヲ常トス本年村岡町牛市場ニ於テ販賣セシ
 牡犢ノ數ハ殆ント五百頭ニ近ク其通價凡ソ壹萬五千圓ニ

下ヲス又養父市場ノ市場ハ目今開市中ニ在リテ未タ其數ヲ算定ス可カラスト雖モ牝犢凡ソ壹千頭ニ近ク其價三萬圓ニ下ヲス右兩市場ヲ通計シテ壹千五百頭價四萬五千圓トナル之ヲ買フモノハ多クハ勢紀、河、泉、攝、播地方ノ博勞ナリ目今市場ノ價格ハ上等ノ牝犢一頭凡五十圓内外中等ニテ四十圓乃至三十五圓下等ニ貳拾五六圓ニ下ヲス現ニ最良ノ牝犢四五頭アリ一頭七十餘圓ノ價格ナリ此滿二歳ニ至レハ必ヲス百圓以上ニ昇ルベシト云フ此ノ如ク價格ノ非常ニ騰貴スルモ需用ノ途ハ増々加リ殆ソド之レニ應スルヲ供給ヲ欠カントスルヲ勢アリ

明治十二年下半年季神戸港輸出入表

昨明治十二年七月ヨリ全十二月ニ至ル半季間神戸港輸出入物品中重要ナルモノヲ列舉シ其額ノ多少及ヒ前半季トノ比較如何ヲ開示スベシ

輸出ノ部

品名	數量	斤	元	價	圓
茶	六、四六五、〇一三		一、七四六、四七四		八二〇
銅類	一、七二〇、九九二		三一三、三四二		一六〇
木蠟	一、二二二、九八四		二二一、四〇七		〇一三
樟腦	九四八、六七四		一七六、八七七		五四〇
扇子			九九、六一七		二〇〇
錫	三九七、一五三		七三、二六二		三七〇
昆布	二、四五七、三二七		六六、七四二		七五二

陶磁器	六二、二二一	六〇六	
寒天	二七八、三〇二	五八、三五五	二〇〇
茸類	一八〇、七七五	五六、二一四	五九六
硫酸	九三三、三九〇	四八、〇七五	四七五
漆器		二七、一〇四	〇七〇
煎海鼠	六六、三九九	二三、九六一	〇二〇
人參	三一、六八二	一四、九九七	一八〇
鑄器		一四、九六五	二五〇
其他諸品		二七五、二七四	六五二
通計		三、二六七、八九二	九〇四

此表ニヨリテ之ヲ觀レハ輸出通計三百二十六萬七千八百九十二圓余ニシテ之ヲ前半季ニ比スレハ其多キ七百〇八

萬五千二百三十六圓余即チ三割三步余ノ増加ナリ其品數ハ百余種ニシテ就中金額ノ最大ナルモノハ茶ノ一品ナリ此元價ハ百七十四萬六千四百七十四圓八十二錢ニシテ輸出總計ノ半額以上ヲ占メ僅々六ヶ月間ニシテ明治八年度九年度十年度ノ如キ一年度ノ全額ヨリハ猶大ナルモノトス次キニ十萬圓以上ノ額ヲ占ルモノハ銅類、木蠟、樟腦ノ三品トシ之レニ次キ扇子、錫、昆布、陶磁器、寒天、茸類等凡ソ五萬圓以上ヲ占ムルモノナリ此等ノ諸品モ之ヲ前半季ニ比スレハ三四割或ハ五割以上ヲ増スモノアリ木蠟ノ如キ前半季ハ二萬九千四百七圓ナリシモ後半季ハ二十一萬一千四百〇七圓余ニ及ヒ十一年度總計ノ殆ント三倍ニ至ル錫ハ前

半季八千五百八十八圓余ナリシモ後半季ハ七萬三千二百六十二圓余ニ及ヒ茸類ハ前半季二萬二千七百五十三圓余ナリシモ後半季ハ五萬六千二百十四圓余ナリ獨リ寒天ハ前半季十四萬六千五百四十一圓余ナリシモ後半季ニハ減シテ五萬八千三百五十五圓余トナリ殆ント四割ノ減額ナリ而シテ銅類、樟腦、扇子、陶器ノ如キ一モ減退スル所ナク稍増進スル所アリ之ヲ要スルニ明治十二年ノ後半季ハ前半季ニ比スレハ貿易ノ隆盛ヲ証スルニ足ルモノアリ

輸入ノ部

品名	數量	元價
綿布類	一六、〇三二、四二六	一、〇二六、九六〇
		五五二

毛布類	四、一八八、二八二	七五〇、六四四	四〇六
毛綿布類	二、四〇一、〇五四	三八七、三〇〇	一四二
石炭油	六、九五八、九四〇斤	一八〇、三六五	〇八〇
鐵類	五、三一、七八六	一二三、三二〇	二八四
木綿糸	三二八、二三八	九二、六二八	七八一
砂糖	三、一二九、六九八	九五、六六九	九八六
紅花	一〇八、一七五	七九、四〇六	五四〇
其他諸品		一、〇二四、四二〇	七〇〇
通計		三、七六〇、七一六	四七一
輸入超過		四九二、八二三	五六七

右表ニヨリテ之ヲ觀レハ輸入物計ハ三百七十六萬〇七百十六圓余ニシテ之ヲ前半季ニ比スレハ五十萬四千三百三

十八圓余ヲ減セリ今夫レ減シタル輸入ト増シタル輸出ト對比スルモ猶ホ輸入ノ超過ハ四十九萬二千八百二十三圓余ノ多キヲ致ス假令ヒ輸出ニ於テ稍々隆盛ノ兆アルモ我商民タル者深ク省察勉強セザル可ラス蓋シ輸入ノ品數ハ三百數十餘種ニシテ就中金額ノ大ナル者ハ綿布類、毛布類、毛綿布類ニシテ其他鉄、石炭油、砂糖等ナリ

兵庫物價表

品名	十月	十一月	十二月	前月ニ比シテ 昂低
醬油(上)	六、九〇〇	六、九〇〇	六、九〇〇	
全(下)	四、五〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	
清酒	一一、九八九	一二、一六三	一一、七五〇	低、四一三

味淋	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	
練綿(上)	一、四五〇	一、四七〇	一、四七〇	低、〇二〇
種油(上)	二二、二〇〇	二二、五五〇	二二、〇〇〇	昂一、四五〇
茶(上)	四四、三二五	四四、六六七	四一、九三五	低二、七三二
全(中)	三三、二二五	三二、七〇〇	三〇、九六八	低一、七八二
全(下)	一八、五四八	一八、四六七	一七、四一九	低一、〇四一
石炭(上)	二八、七五〇	二八、二五〇	二八、〇〇〇	低、二五〇
全(中)	二七、二〇〇	二六、七〇〇	二五、五〇〇	低一、二〇〇
全(下)	二五、五〇〇	二五、〇〇〇	二四、〇〇〇	低一、〇〇〇
鹽	、二九〇	、三〇五	、三二〇	増、〇一五
白砂糖(上)	一六、〇〇〇	一五、五〇〇	一四、七〇〇	増、八〇〇
全(中)	一二、六〇〇	一一、九〇〇	一一、二〇〇	低、七〇〇

全 (下)	一〇、八〇〇	一〇、二〇〇	九、四〇〇	増、八〇〇
木綿糸(上)	二、六八〇	二、七〇〇	二、七九〇	増、〇九〇
全 (中)	二、五六〇	二、五六〇	二、六五〇	増、〇〇九
苧 (下)	一、三三三	一、三七〇	一、四二八	増、〇五八
全 (下)	一、〇五二	一、〇七五	一、一一一	増、〇三六
米 (上)	八、一二三	七、五八七	七、六二七	増、〇四〇
全 (下)	七、七〇三	七、二二五	七、二四六	増、〇二一

酒、油類ハ一石ニ付茶、砂糖ハ百斤ニ付木綿糸、苧ハ壹貫目ニ付石炭ハ壹萬斤ニ付テノ平均相場ナリ

告示

曩キニ各府縣及ヒ本縣各郡ニ照會シ稻穀種ヲ取寄セ現今

集リタルモノ四十七八ヶ所ニ付早、中、晚稻ノ三種ニテ
 總計百四十四種許ナリ之ヲ各郡ニ五六種宛送付スベキニ
 付農事熟練ニシテ篤志ノ人ニ配付シ試作アラシム
 但シ右種ヲ蒔付クベキ地質及ヒ肥料其他收穫迄ノ景況ハ
 成ルベク詳細ニ筆記シ置キ優劣如何ヲ驗スベキ様注意ア
 ラシムヲ希望ス(瓜哇米種モ一同ニ送ルベシ)

○愛知博覽會
 本年四月一日ヨリ五月二十日迄
 名古屋門前町ニ於テ

○大分博覽會
 全四月十日ヨリ六月八日迄
 大分町ニ於テ

○大阪博覽會
 全三月十五日ヨリ六月廿二日迄
 難波御堂ニ於テ

○秋田博覽會
 全四月十五日ヨリ六月十三日迄
 南秋田郡八橋村植物園内ニ於テ

右開設ニ付管下各種ノ物産及ヒ珍器等出品スヘキ様便宜

勸諭アラシキヲ希望ス但規則書ハ本課ニ備エアレハ就テ
一覽スベシ

曩キニ報告セシ宮城博覽會ハ本縣ノ出品遞送費片道(返路)
會費ヨリ支給スベキニ付殊ニ注意出品アラシキヲ希望ス
一明治十一年米國綿試作一覽表勸農局ヨリ回付サレシニ
付通信委員ニ配付ス

一兵庫縣茶麥調査ト題シ本号ノ附録トシテ一冊子ヲ發兌
セリ是レハ曩キニ各郡ニ照會シテ調査セシ茶麥耕種法ヨ
リ平年ノ収量及ヒ昨年生育ノ景況茶麥播種ノ歩合等ヲ表
中ニ収録シ更ニ米國小麥試驗表及ヒ各種肥料試驗表器械
詩畦詩ノ比較表ヲ掲ケ將來小麥改良ノ目的等ヲ論述シタ

ルモノナリ右ハ戸長役場或ハ農業篤志ノ者エハ望ニヨリ
下付スベキニ付三月廿日迄ニ申出ツベキ様郡役所ニ於テ
揭示セラレシヲ希望ス

雜 報

○兵庫七十三銀行も昨年十一月六萬圓の資本金増加を許
可せられ神戸支店に本店を移し内外貿易の一助となさん
と乃趣なるが此度石川縣金澤に支店設置の事を願ひ出大
藏省の許可を得たり

○明石五十六銀行も一昨年来五萬圓の資本金増加を願ひ
出しが昨年十二月三萬圓の増株を許可せられたり

○報告第六号に掲げたる畑苗の事は各郡にても其効驗あ

る事を認め續々試験に着手せると云但馬養父郡にては三
 四十年前既に試作の者ありたれとも水草を乾地に植るを
 其性に悖る事なれば災厄を被るなどの妄言に迷ひ遂に其
 事を廢せしが同郡廣谷村圓山源次郎を明治九年始めて畑
 苗を試作し收穫多ければ連年之を試み愈實益あるを認め
 本年よりを他村まで之れに倣ひ播種せんとする者あり
 と同郡長より報せられたり

○昨年五月但馬七美郡村岡池田清躬に配付したる琥珀甘
 蔗は同月卅日下種三四日よて發芽せしも其後晴天續きに
 て一旦枯死の姿なりしが後一雨を得て俄かに生長し丈け
 七八尺に及ひ根の太サ拇指乃如く其實能く熟したり其味

わ農事月報雜誌等に記載あるものと異なる事なし只實の
 熟する頃節々に枝葉を生し出穂結實せしも鶏食に供する
 に足るのみ是れ土地の冷氣にして幹に十分乃生力を得ざ
 るか又は下種の季節後れて俄かに生長せしによるものな
 るかと右同人より報知ありたり

○有馬郡湯山町乃戸長梶木源次郎を嘗て米人ペレー氏よ
 りユーカーリ一樹乃有益なる説を聞き其臭氣濕氣を去り瘡
 病を避る等の功ある事を承知し同地を山間の濕地なれば
 之れを植へて其公益を謀らんと昨年四月本縣植物試験場
 より該樹百五六拾本を買ひ受け市中に配賦したりしが近
 來に至り丈々五六尺より壹丈貳三尺に及ひ枝葉繁茂の状

頗る見るべきものありと同人乃考には該樹の葉を蒸溜して墨線香鬚附製等に用ひ或も蔭干にして烟草に切り交せ又書類衣裳の間に入置けば紙虫を生せざるべしと委しく其効を述べ一般に廣く繁殖を祈ると報知ありたり

○管下綿砂糖共進會出品は郡役所の盡力にて各人民も其効用を了知し出品人殊に多く綿は八部郡五人菟原郡九人武庫郡二十人川邊郡二十五人明石郡十四人加古郡七十人印南郡廿五人飾東郡十二人飾西郡十一人揖東郡十六人揖西郡九人加東郡五人三原郡三人植物試驗場ヨリ一人總て二百二十六人砂糖及ひ甘蔗は三原郡よて十二人合計二百廿七名なり

○神戸區商法會議所は先年兵庫有志の人々が集會の事を縣廳より願ひ出で商業上有益の事ども會議をべき目的なりしが昨年來神戸區と改稱し區内乃協議を以其費用を辨すべき事となり去七日にも兵神兩港の豪商三十人計會合して役員を撰擧し後來議事の方法等をも談決したりと云ふ

○第二内國勸業博覽會出品人も次第に出願し先月迄に調整せしもの攝丹播諸國にて四百三名なり其内氷上郡四十四名多紀郡四十六名有馬郡五十名川邊郡三十一名武庫菟原は八部未濟赤穂郡二十名佐用郡十二名宍粟郡廿三名揖西郡十六名揖東郡三十三名飾西郡二十五名神東郡十二名神西郡九名加東郡十一名多可郡三十名加西郡四名飾東郡二

十名、印南郡廿一名、美囊、明石、及淡路二郡未濟)にして本月中にも悉皆調濟の手筈なり

○縣下武庫郡乃綿種を一昨年鹿兒島縣に試植されしに至極風土に適したる趣にて同管下一般に普及せらるゝ見込にて綿種拾五貫目買入れ乃事を依頼されしに付先日解説書を添へて同縣へ送付したり

○本縣植物試験場にて栽培せし米國草綿種を熊本縣より請求せられしより「アップランド」「シイアイランド」種五合宛を送致せり

○但馬の杞柳製器を追々盛大に赴き利益も薄からざれば他縣にても往々繁殖乃見込ありて右柳苗を購求せらるゝも

乃甚た多く昨年來百本或は貳三百本宛遞送せし縣々は静岡、島根、廣島、神奈川、宮城、山口等とす此代價百本に付凡貳拾八錢位なり

○本年東京三田育種場種苗交換市開かれしに付(二月十日より)本縣より左の品々を持出し他方産良好之種子と交換すの目的なり○稻粃種(川邊、明石、宍粟、津名、氷上郡)○一寸蠶豆(川邊郡)○大豆(宍粟、多紀郡)黑豆(多紀郡)○綿種(武庫、加古郡)○アップランド綿種(植物試験場)○麻種(朝來養父郡)○妙見杉種(全上)

大坂今橋二丁目
印刷 大阪新報社

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page）

勸業報告第九号

至マハ目録其録益ノ事マハモトクハ...

地方小農會 ○龍野醬油 ○外國貿易 ○農具報告 ○書籍借

覽 ○飲料ノ腐敗ヲ防ク法 ○印度茶馬鈴薯播種法 ○質問

式 ○告示 ○雜報十五件 益大...

地方小農會ヲ開ク説...

事素ヨリ盛大ナラスシテ其益頗ル大ナル者アリ物ノ奇觀

ヲ望スルキチキモ其効太々赫著ナル者アリ顧フニ勸業ノ

事タル其方法一ニシテ足ラスト雖モ農業ノ進歩ヲ謀ルニ

リ急ナルハナク農業ノ進歩ヲ謀ルハ事物ニ就テ利害ヲ明

示シ智見ヲ開達スルニアリ今其目的ヲ達セシト欲セハ地

方小農會ヲ開クヨリ善キハナカルベシ夫レ農會ヲ開ク
目的ハ人ト物トヲ集合シテ智識ヲ交換シ種苗ヲ交換シ其
間利害得失ヲ對照シテ互ニ競争資益セシムルニ在リ即チ
各種ノ物産ヲ蒐集陳列シテ其優劣ヲ鑒査シ彼此種苗ヲ交
換シ又ハ各地ノ老農ヲ招集シ耕種ノ方法ヲ論談講究シ農
業上ノ聞見ヲ廣ムルカ如キ是レナリ夫ノ東京三田育種場
及ヒ共進會ノ如キ其利益大ナラサルニアラズト雖モ其場
所一方ニ限り地方ノ利害ニ於テ未タ甚ク緊切ナラサルモ
ノアリ蓋シ全國中ニテ只一ヶ所ノ會場ナレバ僻遠ノ小民ニ
至テハ殆ソト其有益ノ事アルヲ了知セス假令之ヲ了知ス
ルモ三百里外ノ遠キニ至リ親視實驗スルモノハ千百人中

一二ニ過キサルベシ小農會ハ則チ然ラス近傍諸縣ニテ氣
候物産甚ク相異ナラス其利害ヲ同クスルモノニ限ルガ故
ニ農民ニ向ツテ更ニ一層ノ感觸ヲ與フルヤ必セリ是レ地
方小農會ノ緊要適切ナル所以ナリ豈ニ其事ノ小ナルヲ以
テ之ヲ輕視スルヲ得可ケンヤ往時交際運搬ノ便少ナク隨
テ彼此交通相資益スルコト少カリシ時ニ當リ伊勢參宮ト云
ヒ金比羅詣ト云ヒ農民ノ行旅ハ一時ノ遊觀冗費ニ屬セス
途上ニ於テ各地農業ノ方法農具ノ形狀用法ヲ一見シ自家
耕作上ニ大ニ發悟スル所アリト云殊ニ種子ノ如キハ途ニ遺
テタルヲ拾ヒ家ニ歸リテ之ヲ種植シ効驗アリシコト其例ニ
乏シカラス况ソヤ其方法ヲ設ケテ熟視注目セシメ誘導勸

四
獎ノ道ヲ盡スニ於テオヤ以上論述スル如ク農會ノ目的ハ
人ト物トヲ集合シ專ラ農民ノ利益ヲ謀ルコトナレハ左ノ數
項ノ條目ニ注意シ其方法ヲ設クベシ
第一(開會ノ時期) 毎年一度之ヲ開キ其時期ハ農業閑隙ノ
時ヲ撰ビ殊ニ農民行旅ノ時候ヲ撰テ可シ是レ農事ヲ妨ケ
ス來會ノ者ヲシテ多カラシメンガ爲メナリ
第二(開會ノ場所) 運輸便利ノ處ヲ擇ヒ速カニ達シ費ヲ省
クニ注意スルハ勿論ナリト雖モ殊ニ旅客輻湊ノ所ヲ撰テ
可シ(例エハ讃岐ノ琴平山奈良ノ大佛殿ノ如キ是ナリ)但年
々其場所ヲ移轉スヘシ
第三(會合ノ區域) 聯合區ハ利害ヲ同クスルモノニ限り太

五
廣大ナラシム可ラス蓋シ結合ヲ主トシ旅費ヲ省カシカ
爲ナリ例エハ山陰ト山陽ヲ一聯區トシ畿内近傍ヲ一聯區
トスルガ如シ
第四(開會ノ時限) 其時日ハ務メテ短縮シ長延ナラシム可カ
ラス是レ費用ヲ節スル爲メナラシム一時ノ所ニ多人數ヲ
集合スルノ便アレハナリ
第五(開會中ノ事業) 農事集談、農業演說、農書販賣、農
具販賣、種苗交換、虫害問答ノ類
第六(農夫ノ集合) 管内各郡ニテ老農有志者一二名ヲ公撰
セシメ之ヲ農會ニ出ス可シ其費用ハ數町村ノ協議費ト定
メ時宜ニヨリ地方稅ヲ以テ補助スルコトヲ出シ出品人ハ

第七(産物ノ蒐集)管内重要ノ産物ハ総テ出品シ出品人ハ
 自費ヲ以テ可成來會スルキモ但時宜ニヨリ地方稅
 ナ以テ補助スルコトアル也
 第八(審査及ヒ褒賞)陳列ノ諸物品ハ審査評定シテ褒賞ヲ
 與フルコトアル也但審査費及ヒ賞金ノ額ハ内務省ニ稟申
 合テ補助ヲ請フコトアル也
 此一篇ハ今回中國勸業會開設ニ付課員本山彦ニカ同會
 ニ出シタル意見書ナリ他日各府縣ノ議定ヲ經テ實地ニ
 施行セシムコト期スト云フ

龍野醬油(播磨揖西郡)ノ名ハ夙ニ上國ニ鳴傳京阪等ニテ上

等ノ調味ニハ專ラ之ヲ用ユルコトナレリ抑該地ノ醸造家
 拾五六戸アリテ一軒仕入高多キハ三千石少キハ百余石ニ
 シテ一年惣額壹万六千四百五十石ニ及フト云フ蓋シ該開
 業ノ年曆ヲ繹スルニ未タ其始ヲ詳ニセスト雖モ既ニ百有
 余年ヲ經過シ其間經驗ノ功ヲ積ミ愈熟練シテ益上等品ヲ
 製出スルニ至レリ而シテ此地ニテ醸造ヲ起セシ所以ノモ
 ノハ何等ノ原因ニ由リシヤ亦知ル可カラスト雖モ該城市
 ハ揖保川ニ沿ヒ運輸ノ便稍開ケ川ノ上下醬油ノ元質トナ
 ルヘキ物品ヲ得ルニ容易ナルノ致ス所ナラン第一鹽(赤穂
 第二大豆(宍粟佐用)第三麥(本郡)其外薪(水ノ便尤モ宜シ
 赤穂ノ鹽ハ産出最多ク品位最良シ則チ本郡ニ隣リテ路程

遠カラス揖保川ニ依リテ運輸スルコトヲ得
宍粟佐郡二郡ノ大豆ハ播州中ニテ最上等ニ位シ其粒大ニ
シテ味美ナリ此品モ揖保川ヲ積下リテ大抵該地ノ需用ス
ル所トナル
本郡ノ麥ハ能ク地質ニ適シ産出頗ル多ク品位上等ニ属ス
且該地ノ井水ハ尤モ清澄ニシテ醸造ニヨロシク又其多量
ニ要スル所ノ薪材ノ如キ宍粟佐用ヨリ運送ス蓋此二郡ハ
播州中ニテ尤モ山林多キ所トス
該地醬油醸造ノ開ケテヨリ漸次繁盛ニ赴キ其名益高ク維
新前マテハ甚シキ變動ヲラサリシガ近年ニ至リ稍々衰微
ノ兆ヲ現ハシ殊ニ小店ニテ資財饒ナラサルモノハ多ク閉

店セリ是レ他邦ニ於テ漸次同業者ノ増殖スルト一般商賣
振ハズシテ融通ノ便ヲ得サルノ致ス所ナラン加之ナラス
他所ニ於テ醸造スルモノモ或ハ龍野ノ名ヲ冒シテ販路ヲ
擴ムルト云フ是レ未タ盡ク信スルニ足ラスト雖モ商標條
例等ノ制アラサルヨリ世間往々此弊ヲ生スルモノナキニ
アラサルベシ
元來該品ノ取引先ハ京大阪ヲ以テ最トシ兵庫其他諸方ニ
輸送スルモノハ其量大々多カラス而シテ此品ヲ京阪ニ輸
送スルニハ多ク彼地ノ注文ニヨリ四斗樽ニ積込ミ之ヲ揖
保川口新在家村ニ送り此港ノ問屋ニテ引受ケ和船ニ積込
テ大阪ニ送り大阪ノ問屋ニテハ仲賣等ノ手ニ渡シ各所ニ

賣捌クトトス

凡價值ハ時々變更アルモノナリト雖モ各地ノ醸造家(播州龍野、讃岐小豆島、備前兒島)ハ京阪ニ相會シ春秋兩度ニ談決スルヲ法トシ又間屋ニテハ物品賣捌ノ上二期ニ清算勘定スルヲ常トス然レモ若シ京阪ニテ俄カニ價ノ低落スルルハ間屋ノ方ニテ結算セス之ヲ延期セシム之レニ反シテ價値騰貴スルトキハ之ヲ高價ニ賣捌キ醸造家ニハ曩キニ談決シタル低價ヲ以テ清算勘定スルヲナリ故ニ價值ノ昂低ハ到底間屋ノ掌中ニ歸スト云フモ亦不可ナキガ如シ右ノ情狀ナルヲ以テ富豪ノ醸造家ハ京阪間屋ノ抑制ヲ免レント別ニ自ラ間屋ヲ建設シ時ノ相場ヲ以テ賣買シ其勘

定モ六期ニ決算スル者有リ其他各醸造家モ大ニ此ニ感憤スル所アリテ聯合結社ノ事ヲ謀リ京阪間屋ノ手ヲ經ス直チニ販賣ノ道ヲ立ントスル者アリト云フ是レ利益ヲ相争フノ念ニ出テ己ムヲ得サルノ情勢ナリト雖モ醸造家自ラ販賣ノ道ヲ開クハ亦煩雜ヲ免レサル者アラン若シ能ク双方協和シテ濁リ自ラ利スルヲナサス醸造家ハ間屋ノ注文ニヨリテ專ラ醸造ノ事ニ從ヒ間屋ハ醸造家ノ利益ヲ謀テ勉メテ販賣ノ道ヲ開クハ獨リ一方ヲ利スルノミナラズ双方ノ利便ヲ得ルヤ疑ヲ容レサル所ナリ各自須ヲク此ニ深察スル所アリテ熟ク談合協議アランヲ間屋醸造家ノ爲メニ深ク希望スル所ナリ

醸造家ハ一年中常ニ之ヲ作込ミ又之ヲ絞リ取ルコトナリ
 殊ニ作り込ハ十二月ヨリ四月頃迄尤繁劇ヲ極ムト云故
 ニ醸造家一戸ニテ使役スル所ノ職人ハ毎日五十人ヨリ
 十余人ニシテ凡ソ八時間ノ働ヲ以テ一人役トシ毎一人
 役金七錢トス其繁劇ノ時ハ一人半或ハ二人役ヲ勉ムル
 コトアリ但杜氏頭(チャジト唱フルモノ)ハ通常二人役トス
 是ヲ以テ一般雇銀モ賤カラス雇人一年ノ給料五六十圓
 ニ至ルコトアリ
 日雇ノ外ニ於テ桶職或ハ袋仕立等醸造ノ爲メニ生計ヲ
 立ツルモノ頗ル多ク且川舟ノ船頭ノ如キ之レカ爲メニ
 大ニ利益ヲ受クルモノナリ本年一石ノ價凡 圓トシ之ヲ

大阪ニ送ルニハ四斗樽一挺ニ付凡八錢ノ運賃ヲ要ス其
 品位上中下アリテ近年ハ上等品尤モ需用ヲ減セリ上云
 又醬油絞糟ノ如キハ之ヲ肥料ニ供シ尤モ効用アリ百貫
 目ニ付價凡二圓五十錢余之ヲ一反歩ノ地面ニ施スコト
 トス
 ○本年一月中各港輸出品元價ノ總計ハ二百〇七萬一千
 二百七拾四圓拾四錢一厘ニシテ輸入ハ三百〇八萬九千八
 百七拾五圓七拾四錢六厘ナリ今試ニ之ヲ前年一月ニ對照
 シ其額ノ多寡増減如何ヲ舉示スベシ

輸 出 元 價	十 三 年 一 月 厘	十 二 年 一 月 厘	前 年 比 較 厘
二、〇七一、二七四、一四一	一、九九九、七三〇、五〇六	增七、一、五四三、六三五	

輸入元價 三、〇八九、八七五、七四六二、一四六、四三一、三二三
 輸入超過 一、〇一八、六〇一、六〇五 一四六、七〇〇、八一七
 九四三、四四四、四二三

右掲クル所ニヨレハ輸入元價ノ前年ヨリ多キヲ九拾四萬
 三千四百余圓ニシテ輸出モ亦七萬一千五百余圓ノ増加ニ
 至レリ然リ而シテ其出入ノ差額如何ヲ觀レハ前年一月ハ拾
 四萬六千七百圓余ニシテ本年一月ハ百一萬八千余圓ノ輸入
 超過トナル僅々一ヶ月間ニシテ斯ク驚クヘキ巨額ノ差違
 ナ生シタルモノハ專ラ木綿系、綿布、毛布類ノ輸入ヲ増加セ
 シニヨル蓋前年一月中輸入ノ木綿系、綿布、毛布類ノ元價ハ
 百拾二萬九千五百六拾圓五拾三錢七厘ナリシモ本年一月
 ハ二百一萬四千四百九拾五圓二拾七錢一厘ニシテ差引八

拾八萬四千九百余圓ヲ剩ス是則前年ニ比シ大ニ増加セシ
 所ノ原因ナリ猶各港輸出入物品中々拾萬圓以上ノ額ヲ
 占ムル者ニ就キ神戸一港ニ係ル増減ヲ開示シ本港貿易ノ
 實況ヲ表明スベシ

品名	十三年一月	十二年一月	前年比
乾鮑	二五、一〇五、一〇〇	六四、四一九、八〇〇	減三三、三三四、七〇〇
魚海鼠	一一、三二八、〇〇〇	三六、五九九、八〇〇	減二五、二七一、八〇〇
鰯	七、六五七、八〇〇	六、六〇〇、七五〇	增一、〇五七、〇五〇
石炭	三、二二三、〇〇〇	二、八三六、〇〇〇	增一、八七、〇〇〇
銅	三、四、七四〇、〇〇〇	二、二五〇、七六五	增三、一八九、二三四、二三五

陶器	三七、〇八〇、五五〇	六、〇〇〇、九六〇	增三三、〇七九、六九〇
漆器	三、〇四八、七五〇	二、八七九、〇二〇	指 一六九、六三〇
昆布	二、五八五、〇〇〇	九、六四六、五八〇	減六、六六三、五八〇
寒蕪	一一、五七六、二〇〇	三九、八八六、五三〇	減二八三、二〇〇、〇三〇
茶葉	二五、〇四六、〇〇〇	六四、九九〇、三二〇	減三九、九四九、三二〇
桑	十三、七〇〇、〇〇〇	十二、七二四、〇〇〇	減〇、一四〇、〇〇〇
木蠟	二二、七〇五、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	增一八、一〇五、〇〇〇
樟腦	三八、四〇〇、〇〇〇	一一、四六五、〇〇〇	增二六、九三五、〇〇〇
扇子	二一、八八八、九五〇	二九、五四〇、二〇〇	指七、六五一、〇五〇
梅子	一〇、六七六、二〇〇	七、七五四、九三〇	指二九、二二八、〇〇〇
其他諸品	四八、四六一、六七〇	一〇、三三三、五八〇	五五、一二五、六六五
通入諸品	一、五五三、五二〇	三〇、一六六、一五三〇	減五九、七〇九、三二〇

輸出品中壹萬圓以上の上ルモノハ樟腦銅類茶木蠟扇子椎茸寒天ノ七種ニ過キテ而シテ茶寒天以外ハ皆稍増進ニシテ最近ナリトス

品名	十三年一月	十二年一月	前一月比
綿布類	一九三、五六六、〇八四	一六四、八六三、七三六	指一八、七〇三、三四八
毛布類	一五三、〇〇三、二三八	一〇五、〇三五、九八〇	指四七、九六七、一五七
絹綿布類	三、四二〇、五八〇	二、九五二、九一〇	指四六、六八〇
毛棉布類	四五、五一八、八四〇	三九、七五〇、五〇八	指一五、七六六、三三二
オランダケツ	二〇、一四二、四〇四	三、三二五、三六〇	指一三、七八三、七五四
時計類	一、三七四、〇八〇	七六九、六〇〇	指 六〇四、四八〇
木綿糸	六〇、〇〇四、〇五〇	四、一五二、二八二	指六〇、〇〇四、〇五〇

輸入ノ部 十三年一月 三三、三三四〇
十二年一月 正六、一四、六〇〇
前一月比 四、一一、三四〇

鐵類	六〇、三〇六、九六五	四、七五二、二八二	增六六、五五四、六八三
鐵類	一、三三四、〇八〇	五二四、七三八	五二四、七三八
機械類	二〇、五九三、四六〇	三、七七八、三四〇	增一九、八一五、一五〇
帆船類	四、五二八、八四〇	三三、五〇〇、〇〇〇	減一三、五〇〇、〇〇〇
茶類	七、七五五、二二六	二、五二二、六〇〇	減七、四五五、二二六
洋酒類	一、三三〇、二〇二〇	一〇三、一九二、六六〇	增四、一〇九、三六〇
砂糖類	一、六五五、五六七、七六〇	一、六四一、六四一、〇二〇	增二四、九一五、七四〇
食料類	一、三三五、〇二五、七〇〇	一、三三三、九〇〇	增一、八一七、二〇〇
染料類	九、七三二、三四〇	五、六一四、九〇〇	增四、一一七、四四〇
紙類	二五、九二六、二〇〇	一〇、二二七、五八〇	增一五、六九八、六二〇
熟天皮類	二、九八〇、七九九	茶葉六九四、四四五	增二九三、五四五
製出品類	八、九八六、五六〇	二、二八二、四〇〇	增六、六九八、八六〇

石炭	二五〇、四九九	三六、〇〇〇	增二二四、四九九
石炭油	一四、五七三、七二〇	八七、二七〇、六六〇	增七二、六九六、九四〇
紙類	一、五五五、六四〇	三、五八一、四四〇	減二、〇二五、八〇〇
豆類	六八七、一六四	一、一三五、三〇〇	減四四八、一三四
傘類	二、一一四、〇二〇	一、九七六、一八〇	增一三七、八四〇
鋼類	七〇三、六七二	一、〇一六、六七八	減三三三、〇〇六
其他諸品	四七、九五七、八五六	五二、三七一、四〇〇	減四、四一三、五四四
通計	六二五、五三五、八八七	五一、五一五、〇二八	增一四、〇二〇、八五九
輸出	二四一、五一二、二二〇	三〇一、二六一、五三〇	減五九、七四九、三一〇
輸入超過	三八四、〇二三、六六七	二二〇、二五三、四九八	

輸入品中一萬圓以上ニ居ルモノハ石炭油、紅花、鐵類、機械類、毛棉布類、木棉糸ノ六種ニシテ更ニ十萬圓ニ及ブモノ二種

了非綿布類、毛布類是也。此等皆增進以勢、漢リテ其減退
 不ル也。ハ、ブ、ラ、ソ、ケ、ツ、ト、紙、銅類、及豆、以數種并過、
 上ニ揭タル如ク前年一月輸出、總計ハ三十萬〇一千二百
 六十一圓余ニシテ輸入ハ五十一萬二千五百十五圓余トス。
 故ニ輸出ノ輸入ニ及ハサル、即チ輸入超過、三十一萬〇二
 百五十三圓余ナリ。又本年一月輸出、總計ハ二十七萬一千
 五百十二圓余ニシテ輸入ハ六十二萬五千五百三十五圓余
 トス。故ニ輸出ノ輸入ニ及ハサル、即チ輸入超過、三十八萬
 四千〇二十三圓余ノ多キ、至ル是レ前年ニ比シテ、一十八
 一萬四千圓輸入ヲ増シ、一八五萬九千七百零四圓輸出ヲ減シ
 タルカ故ナリ。

一四、正三、三、二〇〇
 一、二、五〇、四、大、大
 三、六、〇、〇、〇、〇
 二、一、四、〇、四、大、大

更ニ一歩ヲ轉シテ本港貿易、各港貿易、其對照、并如何ハ多
 寡盛衰アルヤヲ辨折セシトス。左ニ揭クル所ノ比較表ハ則
 チ全國ノ關係ヲ示シタルモノナリ。其間、開港、滿洲、關東
 各港輸出入全額歩合

港名	十三年一月	十一年一月	前年比較
横濱	七割四分四厘六七	七割二分〇一八	二分四厘四九
神戸(大坂トモ)	二割七分八厘七九	二割一分二厘三三	三分三厘五四
其他諸港	六二割七分七厘五四	六十分七厘四九	對九厘〇五

是ニ由テ之ヲ觀レハ本港ノ貿易ハ大凡全國十分之二ニ當
 リ、横濱ニ及ハサル、十分ノ七余ナリ。尙ホ、後來如何、増減
 アルベキカ、胡目シテ次回ノ報告ヲ待ツベシ

農具報告

農具ハ土地ニ從ツテ其狀ヲ異ニシ且土性ノ硬軟地勢ノ乾濕ニヨリ使用固ヨリ同シカラスト雖モ彼此得失ヲ比較スレハ大ニ便否遲速ノ差ナキニアラスト今ヨリ後農夫心ヲ此ニ用ヒ迂ヲ捨テ便ニ就キ舊ヲ去リテ新ニ遷ルノ途ヲ求ムルキハ徒ラニ其勞ヲ須ヒス而シテ新ニ遷ルフルヤ必セリ是レ農具報告ノ緊要ナル所以ナリ今左ニ掲クル所ハ播摩國農具一班ノ景況ニシテ未タ詳カニ使用ノ便否ヲ知ルニ足ラスト雖モ茲ニ其端ヲ開キ漸次調整シテ廣ク報道スル所アラントス

播州地方ニ於テ農家用フル所ハ農具ハ中ニ就キ緊要ナル

者ハ牛馬ヲ以テ使用スル鑿并ニ鑿ヲ最トス其材料ハ銑鑄物ヲ以テ之ヲ製ス其消耗ハ甚タ速カニシテ田地壹反ニ付夏秋兩作ニ使用ス一年ニ鑿一二枚又ハ三枚ヲ消耗ス之ヲ平均シ壹反ニ付一年二三枚ヲ常トス鑿ハ破損セサル以上ハ壹挺ニシテ數十年間使用スルヲ得ベシ然レモ其破損スル一屢々ニシテ鑿百枚ニ付鑿三挺ヲ平均トス其消耗ノ多少ハ地質ノ硬軟天氣ノ乾濕ニ因ルモノニシテ早魃ノ時ニ當レバ其消耗殊ニ速カニシテ播摩國消耗ノ高ハ年々凡鑿二十萬前後鑿六千挺ナルベシ昨年ハ旱天ニ依リ鑄物場殊ニ煩劇ナリ其種類ハ鑿ニ十二種アリ大鑿地鑿高田鑿短冊鑿袖切鑿乳鑿中才鑿小鑿佐小鑿等ナリ鑿ニ十四五種アリ石潛鑿

廣鏡狹鏡、大々鏡、大鏡、大中鏡、間ノ物鏡、筋入鏡、中廻鏡、中鏡、小鏡、無久呂鏡、柳葉鏡、丸鏡等ナリ、播、廣、東、南ノ部ハ概シテ小ナル鏡ヲ用ヒ、西、北ノ部ニ至レバ稍々大ナル者ヲ用フルヲ常トス、大ナル者ヲ用ユル所ハ其消耗ノ高モ從テ少ク鏡一枚ヲ以テ一年ニ二反又ハ三反ノ田地ヲ鋤クヲ得ヘシ其製造所ハ往昔ハ京都ヨリ許可ヲ得タル者播、廣、國ニテ七所アリ、毎年兩度祝賀ノ爲メニ出京セリト云フ其三ヶ所ハ姫路、野里ニアリテ多ク此三所ヨリ諸方ニ輸出セリ其他ハ三木ニ一ヶ所赤穂ニ二ヶ所佐用郡ニ一ヶ所アリ皆其特權ヲ有シ他所ニ於テ其業ヲ營ムヲ得サリシ今日ニ至テハ追次諸方ニ起リ十ヶ所許ニ及ヘリ然レモ其尤大ナル者ハ野里ノ尾

上久三郎ノ鑄物場一ノ郷ニ在ル本多辰ノ鑄物所二ヶ所ナリ、
姫路立藩ノ時ニ當リ其管内鹽釜ノ鑄鏡ハ皆其製造ヲ野里三ヶ所ノ鑄物場ニ仰ギシガ此三所ノ鑄物所ハ其株ノ特權ヲ頼ミテ發賣ノ價額ヲ貴フシ巨大ノ利ヲ占有シ農民皆之ニ苦ミシニ因リ大庄屋衆議ヲ以テ藩廳ニ請願シ最初ハ每村ヨリ米五斗ヲ持寄り之ヲ資本トシ創立ヲ計リシガ鑄物場ハ京都ノ許可ヲ得ルニ由ナキヲ以テ野里鑄物株ノ廢業セル者ヲ續キ一ノ所ノ鹽釜鑄鏡ノ鑄物所ヲ起シ令ヲ下シテ姫路管内ノ鹽釜鑄鏡ハ此所ヨリ發賣シ鹽釜ノ外ハ半年前貸ヲ許シ管内ノ農民ハ決シテ他所ニ於テ購求スルヲ得サ

ヲシノタリ當時此一ヶ所ノ製造高ハ鐸二千挺、鏡七萬枚、鹽釜姫路管内ニ用ユル者百六十羽、他所ノ依頼ニ應シテ製造スル數ヲ併セテ五百羽ナリシト云フ、現今本多氏ガ一ノ郷ノ鑄物所ハ即チ其後ヲ承ケシ者ナリ

書籍借覽

抑モ殖産ノ途ヲ開進スルハ執業家平生ノ實歴ト勉強トニ因ルト雖モ亦安ゾ學術進步ノ功ニ依ラサルヲ得ンヤ蓋シ書籍ハ衆人ノ經驗多年ノ實歴ヲ一紙上ニ輯録シタルモノナレハ其益ノ廣且大ナルヤ固ヨリナリ於是本課ハ生産上有益ノ書籍ヲ購求シテ普ク實業家ノ參考ニ供シ併セテ報告編輯ノ資ニ供セシカ爲メ書籍買入費ヲ勸

業雜費ノ中ニ操込ミ昨年縣會ノ決議ヲ經タリ今其資金ヲ以テ購買シタルモノト從來本課所藏ノ書籍トヲ併セ其部數大概百六十其冊數六百有余ニ至レリ然レモ本縣ニ於テハ書籍展覽所等ノ設ケナケレバ其覽閱ヲ便スルニ由ナシ依是止ムコトヲ得ス本課中ニ書籍掛ヲ置キ從來篤志ニシテ郡區役所ノ確認ヲ經出願スルモノハ本課ニ於テ差支ナキ分ニ限リ一ヶ月乃至二ヶ月間貸與スヘシ尤現今ハ其部數甚タ少ク又同種ノ書籍モ乏シケレハ覽上下便少カラサルベシト雖モ猶年々其部數ヲ増シ廣ク有益ノ書類ヲ購求セハ生産上果シテ其効ヲ見ルヘキヲ信ス今逐号書名ヲ列記シテ之ヲ報告スヘシ

農書目錄

成形圖說	三十冊	草木性譜	三冊
大日本樹木誌畧	一冊	茶務僉載	一冊
楊柳植付方心得書	一冊	茶說集成	二冊
牛病新書	三冊	勸農雜話	一冊
新訂草木圖說	二十冊	養蠶新論	二冊
秘傳花鏡記聞	四冊	菓木栽培法	七冊
山林新說	二冊	培養秘錄	四冊
農稼業事	四冊	農學提要	二冊
農學教授書	一冊	葡萄培養法摘要	一冊
梅品	二冊	農學新論	二冊

草木錦業集

三冊

農業問答

三冊

○飲料ノ腐敗ヲ防ク法 (前々号ノ續キ)

第八 葡萄酒

葡萄酒ハ其酸酵ノ終リニ達シ清澄ニ至ルノ後微生物ヲ生シ之カ爲ニ葡萄酒濁濁ヲ呈スルカ或ハ他ノ變化ヲ起スヲ常トスレモ其酸酵止ムノ後々直ニ之ヲ少量ノ水楊酸ヲ加フレハ決テ微生物ノ生スル患ヒナク又變性スルノ恐レナシトス此時葡萄酒ニ加フル水楊酸ノ量ハ葡萄酒ノ異ナルニ從ヒ其量ニ不同アレモ平均葡萄酒一石ニ付水楊酸凡ソ八分ヨリ三匁ヲ加フルヲ以テ足レリトス現今尙ホ葡萄酒ヲ貯ル樽ニ葡萄酒ヲ充填スル前ニ其樽内ニ硫黄ノ蒸氣ヲ接觸

スルノ法ヲ用ユレモ水楊酸液ヲ以テ其樽内ヲ洗濯スルノ
 後ナ之ニ葡萄酒ヲ充填シテ貯フルニハ若カズ
 第九 麥酒
 麥酒ノ釀造法ハ酒ノ釀造法ト頗ル相類似セルヲ以テ酒ヲ
 釀スニ當テ亦水楊酸ヲ用ヒナバ稗益少々ナラサルベシ麥
 酒ヲ製スルニ當リテ水楊酸ヲ用ユルコト合セテ二度トス
 即チ之ヲ釀造スル時ト後ナ之レヲ貯有スル時ニ用ユルナ
 リ而シテ麥酒酸酵ノ際所謂釀母ナルモノ、媒介ニ藉リテ
 葡萄糖分離シテ亞爾箇保爾及炭酸ノ生スルヲ主トスレモ
 又麥酒ノ本性ヲ害フ所ノ冗物之ニ雜テ傍生スルヲ常トス
 例之ハ乳酸酸酵ノ作用ニ由リテ葡萄糖ノ一部變シテ乳酸

トナリ又バクテリアエント名クル所ノ最蟲繁生シ葡萄糖ヲ
 蠶食シ其葡萄糖ハ亞爾箇保爾ニ變セサルヲ以テ亞爾箇保
 爾ノ損耗ヲ生スルコト僅少ナラス水楊酸ハ乳酸酸酵素及
 ヒバクテリアエンヲ枯殺ス而シテ本來ノ釀母モ亦水楊酸ニ
 接觸スルキハ死スレモ乳酸酸酵素ハバクテリアエン等ノ如ク
 容易ニ死セス故ニ麥酒酸酵ノ初メニ適量ノ水楊酸ヲ加フ
 ルキハ乳酸酸酵素及ヒバクテリアエンノ如キハ直ニ枯死シ
 眞ノ釀母ハ死セサルヲ以テ乳酸ノ傍生スルコトナク又葡
 萄糖バクテリアエンノ蠶食ニ罹ルコトナク葡萄糖ハ盡ク亞
 爾箇保爾及ヒ炭酸トナルニ至ルヘシ此時加ヘル水楊酸ノ
 量ハ麥酒一石ニ付二分五厘乃至一匁五分トス麥酒ノ酸酵

終リニ達スルノ後之ヲ巨大ナル樽ニ充タシ密ニ入レ水ニ
 テ冷シ貯フルコトニケ月間ナリ此際麥酒中ニ存スル未タ
 亞爾箇保兒ト炭酸ニ變遷セラル葡萄酒ノ殘分徐々ニ酸酵ヲ
 起ス之ヲ後酸酵ト名ク終ニ盡ク亞爾箇保兒ト炭酸ニ變遷
 シ己ニ葡萄酒盡ルニ至レハ麥酒中ノ亞爾箇保兒更ニ一種
 ノ酸酵ヲ受ケテ醋酸ニ變スルヲ以テ麥酒酸味ヲ呈スルニ
 至ル也故ニ麥酒ノ主酸酵已ニ終リ之ヲ窖中ニ貯フル時ニ
 臨ミ水楊酸ヲ加フレハ後酸酵ハ頗ル徐々ニ起ルモ決テ休
 止スルコトナク其ノ終リニ臨ンデ酸味ヲ生スルノ害ナキニ
 至ル可シ此時加フル所ノ水楊酸ノ量ハ窖中ニ放置スル時
 間ノ長短ニ由リテ一定ナラスト雖モ之ヲ平均スレハ麥酒

一石ニ付水楊酸凡ソ壹匁二分五厘乃至三匁五分ヲ加フル
 ナリテ足レトリス又麥酒ヲ遠地ニ輸送スル時ニ當リテモ亦
 水楊酸ヲ加フルナリ是レ之ヲ運送シ或ハ賣却スルノ際腐
 敗變性スルコト夥多ナルヲ以テ此害ヲ防クカ爲ナリ獨逸
 國ヨリ他國へ麥酒ヲ輸送スルニハ其一石ニ付水楊酸凡ソ
 二匁五分ヲ加ヘルナリ又海路ヲ運送セシトスル時例之ハ
 獨逸國ヨリ他邦へ送ラソトスル時ニ際シ其一石ニ付更ニ
 水楊酸七匁五分ヲ加フルナリ故ニ始メヨリ麥酒ニ加ヘタ
 ル水楊酸ノ量ヲ合算スルハ其一石ニ付加ヘタル水楊酸
 ノ量拾匁乃至拾貳匁五分ニ至ルナリ然レモ獨逸國ニ於テ
 賣却シ他國ニ送ラサル麥酒ニ其一石ニ付始メヨリ加ヘタ

ル「水楊酸」ノ量五匁乃至七匁五分ニ越ヘス
 今日日本酒ノ豫防劑トシテ「水楊酸」ヲ用ヒナハ其效驗果シテ
 期スヘキヤ麥酒及葡萄酒豫防ニ之ヲ用ユルヨリハ其效驗
 遙ニ大ナルベシ酒ニ「水楊酸」ヲ加フレハ度期ニ至リテ之ニ
 火熱ヲ施スノ冗費ヲ省キ酒ニ火ヲ加フルハ唯益ナキハミ
 ニ非スシテ却テ其腐敗ヲ進促スルナリ又酒ヲ醸スニ當リ裨
 益纖小ナラザルベシ麥酒及葡萄酒ヲ醸スニ當リテハ務メ
 テ黴菌ヲ生セシメ所謂麴ヲ製スルヲ以テ始トシ此麴ヨリシテ
 「酒母」ヲ製スルナリ而此酒母ナルモノ夥ク「バクテリアエン」ヲ雜有
 シ酒ヲ醸スニ當リテ更ニ麴ヲ加フルヲ以テ益繁殖シ葡萄酒
 ナ蠶食シ損耗ヲ生スルコト夥多ナリ故ニ酒母ヲ製スルト

酒ヲ醸ストニ當リテ「水楊酸」ヲ加フルハ欠ク可カラサルノ
 要領トス此用ニ供スル「水楊酸」ノ量ハ米一石麴へ米ヲ雜ヘタ
 ルモノヲ謂フニ付凡ソ一匁八分乃至二匁五分乃至三匁五
 分トス此時「水楊酸」ヲ加フルニ因テ「亞爾箇爾」ノ損失ヲ防ク
 ノミニ非ラスシテ又他ノ害ヲ避クルヲ得ヘシ夫酒ニ種々
 ノ香氣アルハ吾人ノ知ル所ニシテ其香氣ニ不同アルハ一
 ツハ之ヲ醸スニ用ユル米種ノ異ナルニ因リ一ハ酒造ノ際
 種々ノ關係ニ因ルモノナリ而シテ酒造ノ際酒中ニ夥シク
 「バクテリアエン」ヲ存スルハ惡臭ヲ發生シ其臭氣亞爾箇保
 爾ヲ化生スルニ當リ發スル美香ト混合シ酒ノ固有ノ美香
 ナ害フニ至ル「水楊酸」ヲ用ヒテ酒ヲ醸スハ「バクテリアエン」

チ枯死シ惡臭チ發セサルニ至ルカ故ニ美香チ有スル酒チ得ルヤ必然ナリ又「水楊酸」チ加ヘテ酒チ醸スニ因リテ巨大ナル裨益チ得ヘシ即チ「バクテリエ」ハ米チ蠶食シ毫モ「亞爾箇保爾」チ化生セサルチ以テ其ノ「バクテリエ」ヨリ喰ハレタル部分ハ全ク損耗ノ分ト看做ザルチ得ズ今「水楊酸」チ加ヘテ「バクテリエ」チ殺スキハ米盡ク真正ノ釀母ノ媒介ニ籍リテ「亞爾箇保爾」ニ變遷ス故ニ「水楊酸」チ加ヘテ酒チ醸スト加ヘズシテ醸ストニ由テ同量ノ米ヨリ得ル所ノ酒量或ハ其強弱ニ差異アルヤ必然ナリ余符テ米百分中眞ニ「亞爾箇保爾」ニ變スル部分ハ八拾分ニ過キスシテ自餘ノ二拾分ノ損失ハ多クハ「バクテリエ」ノ蠶食ニ罹ルト論シタリ

今此二拾分中眞ニ「バクテリエ」ノ蠶食ニ罹リシモノチ八分トナシ自餘ノ拾二分ハ他ノ原因ニヨリテ損失スルト看做スキハ「實地經驗」ニ由レハ「バクテリエ」ノ蠶食トナルモノノ八分ヨリ多カルベシ「水楊酸」チ用ヒテ酒チ醸セハ得ル所ノ酒ノ量ハ同量ノ米ヨリ從前ノ法水楊酸チ加ヘスシテ製スルチ云フチ用ヒテ製シタル酒ノ量ヨリ十分ノ一分多カルベシ今從前ノ法チ用ヒテ製スルキハ米拾一石ヨリ酒拾石チ得ルト看做シ「水楊酸」チ用ヒテ之チ製スレハ「水楊酸」ノ代價トシテ僅ニ二三錢チ費スノミニシテ米拾一石ヨリ酒拾一石チ得ベシ價額チ以テ之チ云ヘハ米一石ニ付得ル所ノ利潤一圓多カル可シ

印度茶及ヒ馬鈴薯播種法

今度各郡ニ配付シタル印度茶實及ヒ馬鈴薯ノ播種方ヲ
掲ケ試作者ノ参考ニ供セントス各自厚ク注意培養シ其
生育ノ景況等時々報道アラソコヲ期望ス

○印度茶

此種ハ印度茶實ヲ支那九江ニ播種シ採取シタルモノナレ
ハ或ハ少シク異ナル所アルヘシト雖モ樹幹長大トナリ枝
葉繁茂シ紅茶ヲ製スルニ於テ最モ適當ナルモノナリ依テ
管下ニ於テモ廣ク繁殖セシメソコヲ期ス○蒔付クヘキ地
ハ可成暖ニシテ濕氣ヲ含メル地ヲ撰ムヘシ○此茶ハ生長
シテ極メテ巨株トナルモノナレハ畑地四尺方地ヘ一粒宛

蒔付ケ萌生ノ上ハ日蔽ヲナシ順次生長スルニ隨ヒ之ヲ取
除クベシ○播種地ノ模様ニヨリ床蒔ニテモ苦シカラス然
ルモハ六寸方地ヘ一粒ツヽノ割ヲ以テ植付ケ發生ノ後本
園ヘ移植スヘシ但成ルヘク直ニ本園ヘ蒔付クル方ヲ善シ
トス○肥ハ人糞ヲ以テ善トス但最初ハ別シテ根本ニ灌ク
可カラズ少ク根本ヲ隔テ深サ二三寸ノ小溝ヲ穿リ之ニ灌
入ルヘシ○生長ノ後ハ茶葉ノ大サ長サ五寸余横巾二寸三
分許重量二分ニ至ル其収量ノ多キ推シテ知ル可キナリ

○馬鈴薯

馬鈴薯ハ「シヤガタライモ」或ハ五斗芋ト唱ヘ内國ニテモ從來植
種セシガ此種ハ米國薄赤馬鈴薯ニテ一年二度或ハ三度ノ

取獲アルモノナリ○播種ノ地ハ砂交リノ畑地ニテ通常ノ畦ヲ作り一尺位ノ隔リニ草木灰少許ヲ埋メ其上ニ二三寸土ヲ覆ヒ馬鈴薯ヲ其上ニ置キ埋肥シニ接着セサル様注意スベシ○四月中旬ニ植付ケ七月中旬ニ収納シ又直ニ他ノ畑地ニ播種シ(前法ノ如ク施糞シ)十月下旬ニ至リ再々収納スルヲ得○薯ノ小ナル者ハ一塊ニテ播種シ大ナル者ハ二三個ニ分割シ其割リ口ニ塗ルニ藁灰若クハ炭酸石灰ヲ以テスベシ○下種ノ後發花ノ時迄二三回耕耘スヘシ二度目ノ植付ケ後ハ旱害ヲ被ラサル様時々灌水ヲ怠ル可カラス

質 問

丹波國多紀郡筱山 畑 弘 和

本郡村々ノ田地ニ於テ蛭薺ト唱フル浮草ヲ生シ(葉色青黄ニシテ蛭ニヨク似タリ其形大蛭ト同シ)其根深ク田地ニ入ル此草一度萌芽スルキハ忽チ蔓延シテ容易ニ取尽ス可ク能ハス懶惰ノ農夫或ハ疾病患難ノ事アリテ數日間耕耘ニ怠ルキハ該草大ニ蔓延シ二三年ノ後ハ饒地モ瘠土トナリ之ヲ芟除スルノ難キ實ニ他草ノ比ニアラス是レ農夫ノ太々嫌惡シテ最モ芟除ニ苦シム所ノモノナリ從來之ヲ取尽スノ法ハ唯人力ヲ以テ深ク入りタル根底ヲ掘採リ集メテ燒却スルヨリ外ナシ若シ誤テ他草ノ如ク泥中ニ埋ムルキハ他年復々繁茂スルモノナリ夫レ此草ノ生スル果シテ何ノ原因ナルヤ又之ヲ枯死セシムルノ方法或ハ藥劑ニテモア

ラハ垂示セラレシコトヲ希望ス
 淡路國津名郡浦村 畠田 隆三
 本村ニ於テ從來春季靱蒔ノ後少シク發芽スルヤ群蛙田面
 ニ集合シ暴闘殊ニ甚シク大ニ稻苗ヲ害ス俗之ヲ蛙合戦ト
 云フ其數一群六七百ニ下ラス殊ニ昨年ノ如キハ近傍ノ苗
 代ニ現出少カラス頗ル驅除ニ尽力セリト雖モ未タ其實効
 ナ奏スルニ至ラス今廣ク之ヲ江湖ニ質シ當春ノ豫備ニ供
 セント欲ス若シ良法ヲ垂示セラルレバ幸甚ナリ云々
 編者曰ク所聞ニ據レバ佐用近傍ノ諸郡ニ於テハ蛙群ノ
 田面ヲ妨害スルキハ之ヲ捕殺シテ二疋或ハ三疋ツヽ芋
 頭ニ貫キ苗代ノ周圍ニ立ツ然ルキハ蛙忽チ畏レテ遁逃

シ復群集スルコトナシト是亦可試ノ一法ナランカ要スル
 ニ二間トモ尚豫防ノ名策アラバ本課ニ宛テ報道アリシ
 コトヲ希望ス

告 示

○今般東京上野公園内博物館出張所ニ於テ觀古美術會開
 設相成候ニ付テハ縣下社寺又ハ其他人民有志者ヲシテ精
 々出品セシメ度旨出品順序書相添同局ヨリ照會相成候ニ
 付各郡役所ニ於テ此旨揭示シ社寺等エハ殊ニ獎諭アラシ
 コトヲ希望ス但シ運送費ハ往復トモ同局ヨリ給スベシ
 ○支那上海居留ノ御國人民商同會ト稱スル一社ヲ設ケ商
 業上ノ公益ヲ商量シ之ヲ實際ニ經營スルヲ以テ目的トシ

商況ノ調査物價ノ報告及ヒ見本取扱方等ヲ依頼スルモノ
 アレハ爲メニ所辨スルコトアルベシ右ハ本港於テ頗ル重大
 ノ關係ヲ有シ最モ便利ノ事ナルヲ以テ之ヲ管内ニ告示ス
 右二項トモ規則書ハ本課ニ備アレハ就テ一覽スベシ
 雜報

○綿糖共進會も去月十五日開場式を行われたるが當日も
 河瀬商務局長が内務大藏兩卿の代理として綿糖二品の衰
 微を起し務めて外品の輸入を防遏するも尤も今日の急務
 として此の衰微を起さる人民の氣力を奮起せしむるに在る
 旨を朗讀され續て大阪商法會議所會頭五代友厚氏は成る
 べく綿糖二品の間屋として其口錢を薄くせしめ製産者乃

利益を多からしめ政府乃厚意に答へんと欲する旨を演述
 し何れも聴衆をして感歎せしめたり此日臨席の面々を農
 商兩局長を始め近府縣知事令大少書記官在阪奏任官及び
 共進會事務掛審査掛各府縣委員出品總代人等よて頗る盛
 なることにてありき
 ○又右共進會出品は府縣乃順序にて審査を始め本縣も去
 月廿八日相濟み頗る評判よかりしが就中武庫郡鳴尾村の
 出品も頗る觀者の高評を受け既に去月中七八名も賣買約
 定濟相成たり尙本月廿八日を褒賞授與式を行へる、答に
 付當日乃景況は後号を待て詳報すへけれとも出品人も成
 るべく拜觀されたき事なり

○又右共進會に付て武庫郡々書記羽館三根氏を綿審査掛に採用されたり

○曩きに伊丹町の杜氏壹組を宮城縣に差越したるが近頃同縣勸業課員の話より伊丹の醸造法は隨へば其味の芳烈賞すべきを勿論清酒の分量頗る多く奥州の舊法にては三度も火を入れ壹度に一割宛を減するは伊丹の法にては火入一度よてよろしく其有益なる事尤大なりと語られたり

○報告雜誌類各府縣とも其有益を認められ京都府愛媛縣より曩に報告書を送られたるが廣島縣よても本月より發兌になり其第壹号を送られたり尙岡山縣にては同様發兌の目論見ある由

○静岡縣より管民獎勵の爲め明治十年以降創製改良に係りたる物品を陳列して縦覽致させ度よ付本縣にて右乃物品を買揚げ回送相成度旨照會されしに付夫々回送の手順をなしたり其物品を左の如し(神戸區澤茂吉製)コンデンスミルク二罐(飾東郡姫路平井市平製)黒革金模様付カバン、黒革卷黄入(津名郡洲本澤井利七製)正紺木綿編、正紺緋木綿織、竹織手拭、肩掛、白綾織(洋服用)等なり

○大分縣大分博覽會に於ては地方稀有の物品を集収し商家の爲め將來賣買の目的を開かしめん爲縣下鳴門密柑兵庫編(以上三原郡)杞柳製器城崎郡(明石燒)明石郡等乃物品を回送ありたき旨同縣より照會になり是亦回送の手順よ及

ひたり
 ○岐阜縣にて去十二月來各郡に農談會を開き從來の實
 驗將來の改良法等夫々問題を設けて演述せしめ其重要と
 認むるものを筆記して本廳に申報するの法を設けしに漸
 次隆盛な赴き發言者も人の爲めに言ふことを惜まざり傍聽
 者は己れの爲に聽くことを喜ぶの有様に至れりと各縣と
 も追々殖産の道に注意するに至りたるは國家の祝すべき
 事にこそ
 ○過般廣島縣より中國勸業會を起し聯合府縣勸業上の利
 害得失を商議しては如何との照會ありしが幸に今般共進
 會に付各府縣の委員も大阪に出張の折柄なれば京都大阪

の二府塚岡山廣島山口島根及本縣の勸業課員が去ル五日
 綿糖共進會乃一室を借受け會合の手續を定めたり尙各員
 歸縣乃上長官の裁可を得て毎年一回開會する事に決議し
 たり
 ○愛媛縣伊豫松山産の高機縞を近來濫製乃弊を生じ他の
 信憑を失したるより同地の同業者も今般結社して品位の
 改良及販路乃擴張を計らんと新たに規則を設けて管下の
 同業者へも通知あらん事を同縣に願出たるに付き管下の
 同業者へ普く通知を頼むる同縣より照會ありたり其規則
 書を本課に備あれば有志乃者は就て承知をべし
 ○又這回神奈川縣下横濱公園地に物産陳列場を設立した

るが該場も天造人工を問えど總て供給の途を開き賣買乃業を擴め國産の繁殖を謀るの主意にして該場に於て販賣するものも其精粗と善惡とに拘はらず務めて世人乃嗜好を察し需用供給の途を擴めんとするよあれば當縣にても輸出品並著名乃物産を成るべく出品する様厚獎勵致度旨同縣より依頼ありたるに付き有志のものは精々出品ありたり尤規則書は本課に備あれば就て見るべし

○此頃葡國領事より南亞米利加産の牧草種を送られたるに付一半は植物園に試植し其一半は但馬國七美郡役所に送りて試植せしめたるが該草も二尺ヅ、間隔を取り植付れば一丈余も生長し牛及尋常家畜の食用には絶妙の品なり

り之を根本より刈取れば再び芽を生し一周間に二尺斗も生長せると云ふ

○曾て本紙に記載したる三田士族の陶器社より此頃二十七棚(代價百圓許)の陶器を東京勸工場に送致し漸次販賣の道を開かんとす

○一昨十一年佛國博覽會に出品したる飾東郡平井市平、三木善平、浦上外三郎、浦上外七郎以上革細工七美郡今井治兵衛、黒野勘四郎(紙紋り)、出石郡高岡源造(陶器)盈進社惣代永岡成徳(磁器)へ内務省博覽會事務局より報告書四冊を下附になり夫々分配の手順に及びたり

○此頃武庫郡西乃宮に於て酒糟より「アルコール」乃製造を

明治十三年四月一日出版御届濟

御用掛 三原國一郎編輯

賣捌所

神戸北長狹通四丁目

神戸新報社

同 相生橋南詰

日弘堂

大坂今橋二丁目

大阪新報社

一、明治十三年四月一日出版御届濟
 二、御用掛 三原國一郎編輯
 三、賣捌所 神戸北長狹通四丁目 神戸新報社
 同 相生橋南詰 日弘堂
 大坂今橋二丁目 大阪新報社
 印刷 大阪今橋二丁目 大阪新報社

露光量違いの為重複撮影

印刷

大阪今橋二丁目 大阪新報社

明治十三年四月一日出版御届濟

御用掛 三原國一郎編輯

賣捌所

神戸北長狹通四丁目

神戸新報社

同 相生橋南詰

日弘堂

大坂今橋二丁目

大阪新報社

東 京 圖 書 館

二 八 函 門

三 架 部

號 類

終